

法政大學講義録

杉本, 貞治郎 / 岡, 八 / 吾孫子, 勝 / 松浦, 鎮次郎

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

12

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

51

(発行年 / Year)

1904-03-03



(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
每月一、三、五、八、十一、十三、十六、廿一、廿三、廿六、廿八、三十日發行

明治三十七年三月三日發行

特別法ノ十二

法政大學講義錄

第四拾四號



法政大學發行

特別法第十二號目次

市制 町村制 (自三二至四三) 法學士 松浦鎮次郎

競賣 法 (自三三至五三) 法學士 吾孫子勝

特許 法 (自一〇七至一三六) 法學士 杉本貞治郎

表紙及び目次 六頁

執達吏規則 (自二四至二四) 法學士 岡八

雜報

○擔任講師ノ變更○選舉豫定時間ノ變更ト選舉ノ效力○區ノ起債權○行政訴訟ノ相手方

090
1903
5-12

ナノ間モ亦然リ又公民ニシテ陸海軍ノ現役軍人タル者及現役以外ノ兵役ニ在
ルモ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタル者ハ公民タルコトヲ失ハサレトモ
然モ其間ハ市町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得サルモノトス從テ市町村公民タ
ル者ニ限リ任スベキ職務ニ在ル者ニシテ公民タル要件ヲ失ヒ公民權ヲ停止セ
ラレ若クハ兵役ノ爲メニ市町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得サルニ至リタルト
キハ何等ノ手續ヲ要セス當然其職ヲ解カルルノ結果ヲ生ス職ニ就キタルカ爲
メ公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ公民權ヲ停止セラレ又ハ兵役ノ
爲メニ市町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得サルニ至リタルトキモ亦然リ法ハ猶
此等ノ職務ニ在ル市町村吏員ニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕
罪ノ爲メ豫審ニ付セラレタルトキハ監督官廳ニ於テ其職ヲ停止スルヲ得ル所
トヲ規定セリ市制九町村制九

第五節 市町村ノ機關

市町村ハ公法人ナリ故ニ之ヲシテ其意思決定作テ其活動ヲナシム所ガ爲メニ

市制町制 自治體タル市町村 市町村ノ機關

山種種ノ機關ヲ要ス其機關ヲ分テ議決機關及ヒ行政機關トス議決機關ハ專ラ市町村ノ意思ヲ決定スルカ爲メニ設ケラレタルモノヲ謂ヒ行政機關トハ議決機關ヲシテ市町村ノ意思ヲ決定セシムルカ爲メニ必要ナル準備ヲナシ及ヒ議決機關ニ依リテ決定セラレタル市町村ノ意思ヲ外部ニ施行スルカ爲メニ設ケラレタルモノヲ謂フ前者ハ市町村會ニシテ後者ハ市參事會町村長及ヒ其補助機關是ナリ

第一款 議決機關即チ市町村會

市町村會ハ市町村會議員ヲ以テ組織セラレタル合議體ナリ議員ノ法定數ハ市ニ在テハ最低限三十人最高限六十人町村ニ在テハ最低限八人最高限三十人ニシテ市町村ノ人口ニ準シ差等アリ但特ニ市町村條例ノ規定ヲ以テスレハ法定ノ數ヲ増減スルコトヲ得然レトモ市ニ在テハ其最高限ヲ超ユルコトヲ得ス議員ノ選舉權ハ市町村公民之ヲ有スルヲ本則トスレトモ現役若ハ戰時事變ニ際シ召集中ノ陸海軍人及ヒ公民權停止中ノ者ハ公民ト雖モ之ヲ有セス又公權ヲ

有スル内國人ニシテ直接市町村稅ヲ納フ其額市町村公民ノ最多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリ多キ者ハ其自然人タルト法人タルトヲ問ハズ其市町村ニ利害ノ關係ヲ有スルコト深キノ故ヲ以テ公民ニ非ザルモ特ニ此權利ヲ有セシム但公民權停止中ノ者及ヒ陸海軍ノ現役軍人ハ此限ニ在ラズ議員ノ被選舉權ハ選舉權ヲ有スル市町村公民ハ皆之ヲ有スルヲ本則トスレトモ其市町村ノ屬スル府縣郡ノ官吏有給ノ市町村吏員檢事及ヒ警察官吏神官僧侶其他諸宗教師小學校教員及ヒ辯護士ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辦スルヲ業トスル者ハ之ヲ有セス二十二年關令第十八號ヲ以テ此處ニ所謂官吏ノ意味ヲ解釋シ單ニ在職者ニ限ルコトトシ休職者ニ在リテハ本局長官ノ許可ヲ得テ議員タルヲ得ルコトトセシ又父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ市會議員タルコトヲ得ス故ニ同時ニ選舉セラレタルトモ其投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ同數ナラハ年長者ヲ當選トシ時ヲ異ニシテ選舉セラレタル場合ニハ後者ヲ當選ハ無效トス市參事會員町村長若ハ助役ハ其間父子兄弟タルノ緣故アル者モ亦之ト同時ニ市町村會議員タルコトヲ得ス若シ議員

トノ間ニ其緣故アル者市參事會員ノ任ヲ受ケ又ハ町村長助役ニ選舉セラレ認
可ヲ受ケタルトキハ其緣故アル議員ノ其職ヲ退カサルヘカラズ市町村公民ニ
シテ前掲以外ノ官吏タル者ハ被選舉權ヲ有セサルニ非ザレトモ當選シテ之ニ
應ゼントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ケサルヘカラス市町村會議員ノ選舉
ニ付テハ比較的多少ノ資産ヲ有スル少數者ノ利益カ比較の僅少ノ資産ヲ有ス
ル多數者ノ利益ノ爲メニ壓倒セララルヲ防キ富者ト貧者トノ利益ヲ均等ニ代
表セシムルカ爲メニ所謂階級選舉ノ制ヲ探レリ市ニ在ラハ選舉人ヲ三級ニ分
テ選舉人中直接市稅ヲ納ムル額最多キ者ヨリ順次之ヲ合セ選舉人全員ノ納ム
ル總額ノ三分一ニ當ルマテノ者ヲ一級トシ次ニ二級選舉人ノ外直接市稅ヲ納
額最多キ者ヨリ順次之ヲ合セ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三分一ニ當ルマテノ
者ヲ二級トシ其餘ノ選舉人ヲ一括シテ三級トス各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者
アルトキハ上級ニ入ルヘク又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其
市ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ルモントス若シ住居ノ年數ニ依
リ難キトキハ年齡ヲ以テシ年齡ニモ依リ難キトキハ市長ニ於テ抽籤ヲ以テ之

ヲ定ムルモノトス如斯クニシテ選舉人ノ等級ヲ分テ每級各別ニ議員ノ三分一
ヲ選舉ス但其被選舉人ハ必スシモ同級内ノ者ニ限ラス町村ニ在ラハ選舉人ヲ
二級ニ分テ選舉人中直接町村稅ヲ納ムル額最多キ者ヨリ順次之ヲ合セ選舉人
全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルマテノ者ヲ一級トシ其餘ノ選舉人ヲ二級トシ若
シ納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ之ヲ一級ニ入レ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者
二名以上アルトキハ其町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入レ之ニ
依リ難ハナルトキハ年齡ニ依リ之ニモ依リ難ハナルトキハ町村長抽籤シテ何
レノ級ニ入ルヘキカラ定メ各級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉セシム但其被選舉人
ハ必スシモ同級内ノ者ニ限ラス選舉ニ關シ特別ノ事情アリテ以上ノ例ニ依リ
難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ特例ヲ設ケタルコトヲ得如斯ク市ト町村トニ
依リテ選舉等級ノ數ヲ異ニスルハ畢竟市ト町村トハ其情況ヲ異ニシ町村ニ於
テハ人民生活ノ狀態モ略相同シク生計ノ程度モ其差異比較的ニ甚シカラサル
ニ反シ市ニ於テハ人民生活ノ狀態種種難多ニシテ貧富ノ懸隔甚シク從テ町村
ニ於ケルヨリモ多クノ階級ニ選舉人ヲ分テ各其利益ヲ適當ニ代表セシムルヲ

必要アルニ由ルナリ向來市ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツニハ前已ニ述ブルカ如ク直接市税ノ納額最多キ者ヨリ順次之ヲ合セ選舉人全員ノ納額三分一ニ當ルマテノ者ヲ一級トナスヘキモノナレトモ若シ一人ニシテ其納額選舉人全員ノ納額三分二以上ニ達ル者アルカ如キ場合ニハ如何ニスヘキヤ之ニ付テハ市制ニ何等ノ明文ナシ而シテ如斯キ場合ハ單ニ想像ニ止マラス先年或市ニ於テ現ニ起リ來リタル實際問題ニシテ之ニ付テ當局者ハ全體ノ選舉人ヲ二級ニ分ツコトトシ其多額納税者ヲ以テ一級選舉人トシ其他ノ選舉人ヲ二級選舉人トシ各議員ノ半數ヲ選舉セシムルノ便宜方法ヲ採リタルコトアリ是レ實際ノ措置トシテハ已ムヲ得サルニ出ラタルモノナルヘシト雖モ如斯キハ唯便宜ノ方法トイフノミニシテ何等法規ノ根據アルニ非ス要スルニ此點ニ關シ市制ノ規定ハ其不備タルヲ免レタルナリ市町村會議員選舉人ノ級別ノ標準タル直接市町村税ノ何タルカハ市制町村制ノ規定ニ基キ內務、大藏兩大臣ノ定ムル所ニシテ之ニ依レハ直接國税及直接府縣税ノ附加税即チ國税タル地租所得税所得税法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得税ヲ除ク營業税ノ附加

税及府縣税タル戸數割家屋税營業税雜種税ノ附加税及ヒ市町村ノ特別税タル段別割ハ當然之ヲ直接市町村税トシ其他市町村ニ於テ特ニ賦課スル租税ハ各箇ノ場合ニ付キ府縣知事ノ稟申ニ依リ內務、大藏兩大臣ニ於テ之ヲ直接市町村税トスルヤ否ヲ定メ其直接トスヘキモノハ府縣知事ヲシテ管内ニ告示セシムルモノトス選舉ニ關シテハ區域廣潤又ハ人口稠密ナル市ニ於テハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級若ハ三級ノ選舉ノ爲メニ之ヲ設クルモ妨ナキモノトス又東京市、京都市、大阪市ニ於テハ當然區ヲ以テ市會議員ノ選舉區トスルモノトス如斯ク當然區ヲ以テ選舉區トナス場合ノ外選舉區ノ數及ヒ其區域ヲ定ムルコト及ヒ總テ各選舉區ヨリ選出スル議員ノ員數ヲ定ムルコトハ選舉人ノ員數ニ準シ市條例ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス選舉人ハ總テ其住居ノ地ニ依テ其所屬ノ區ヲ定メ其市内ニ住居ナキ者ハ課税ヲ受ケタル物件ノ所在ニ於テ之ヲ定メ數選舉區ニ互リ納税スル者ハ課税ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定メ各選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツモノトス但該選舉人ハ其選舉區内ノ者ニ限ラス町村ニ於テハ別ニ選舉區ヲ設クルコトヲシ選舉ヲ行フコ

トヲ必要トスルトキハ市長町村長ハ其選舉前六十日ヲ限リ其日ノ現在ニ依リテ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ更ニ選舉人名簿ヲ調製シ選舉區ヲ設クル場合ニハ每區各別ニ原簿及名簿ヲ調製シ選舉人名簿ハ七日間市ニ在テハ市役所又ハ其他ノ場所町村ニ在テハ町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ縱覽ニ供セタルヘカラス已ニ縱覽ニ供シタル後ハ市長町村長ニ於テ名簿ニ誤アルコトヲ發見スルモ之ヲ變更スルコトヲ得ス然レトモ關係者ニ於テ名簿ニ關シ訴願セントスルトキハ縱覽期限內ニ之ヲ市町村長ニ申立テ市町村長ハ之ヲ市町村會ノ裁決ニ付スヘク訴願人ニ於テ其裁決ニ不服ナルトキハ市ニ在テハ府縣參事會ニ町村ニ在テハ郡參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服ナルトキハ市ニ在テハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得町村ニ在テハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得尙ホ町村ニ在テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルカ故ニ其判決又ハ裁決ノ結果ニ依リ名簿ヲ修正スヘキトキハ選舉期日前十日マヲノ内ニ修正ヲ加フヘク選舉期日前十日ニ至レハ名簿確定スルモノトス確定名簿ノ效力ハ唯之ニ登載セラレタル者ハ何人タリトモ選舉

ヲ行ハシメサルニ在リ決シテ之ニ登載セラレタル者ニ悉ク選舉ヲ行フノ權利ヲ與フルノ趣旨ヲ有セス故ニ選舉權アル者カ誤テ選舉人名簿ニ登載セラレタリシ場合ニハ選舉ヲ行フコトヲ得サルハ論ヲ待タスト雖モ選舉權ナキ者カ誤テ選舉人名簿ニ登載セラレタルコトアリトスルモ之カ爲メニ選舉ヲ行フコトヲ得ルニ至ルニ非ス確定名簿ハ選舉ニ依リテ當選シタル者カ當選ヲ辭シ若クハ前ノ選舉カ無効トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ行フトキハ其儘之ヲ使用スルモノトス其他最初ノ選舉ニ於テ所要ノ數ノ當選者ヲ得サルカ爲メ補充ノ選舉ヲ行フ場合ニ於テモ亦此名簿ヲ用ユルコト勿論ナリトス選舉ヲ執行スルトキハ市長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及ヒ選舉スヘキ職員ノ數ヲ各級各區ニ分テ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及ヒ選舉スヘキ職員ノ數ヲ各級ニ分テ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告スヘキモノトス各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ市ニ在テハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘク町村ニ在テハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘキモノトス市長町村長ハ選舉人中ヨリ臨時ニ二名若ハ四名ノ名譽職選舉掛ヲ選任シ選舉區ヲ

設ケルトキハ毎區各別ニ選舉掛ヲ設ケ市長町村長若ハ其代理者ニ於テ自ラ掛長トナリ區域廣潤又ハ人口稠密ナル町村ニ於テ町村會ノ議決ニ依リ區劃ヲ定メ若ハ二級選舉人ノミニ付テ選舉分會ヲ設ケタル場合ニハ本會ト同時ニ之ヲ開キ本會ニ於ケルト同一ノ例ニ依リ分會ノ選舉掛ヲ選任シ町村長ノ選任シタル代理者其掛長トナリ各選舉會及分會ヲ開閉シ及ヒ會場ノ取締ニ任ス選舉ハ投票ニ依リ選舉人自ラ之ヲ行フヲ本則トスレトモ公民ニ非スシテ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其者カ獨立ノ男子ニ非サルカ又ハ法人ナルトキハ必ス代人ヲ以テセサルヘカラス而シテ代人タルコトヲ得ルモノハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限リ且一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證トセサルヘカラス公民ニ非スシテ選舉權ヲ有スル者カ代人ニ由リテ投票ヲ行フニ當リテハ本人自ラ其何人ヲ選舉スヘキヤヲ定メ代人ヲシテ其儘投票ヲ爲サシムルノ方法ニ依ルコトヲ得ルハ論ヲ待タスト雖モ本人自ラ何人ヲ選舉スヘキヤヲ定メス代人ヲシテ隨意ニ之ヲ定メシムルノ方法ヲ探ルモ法ハ別ニ之ヲ禁スルモノニ

非サルカ如シ代人ハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子タラサルヘカラストシ又一人ニシテ數人ノ代理ヲナスコトヲ得ストセルヲ以テ見ルモ法ハ始ヨリ選舉カ代人ノ意思ノミニ依リテ行ハルルコトアルヲ豫想シ之ヨリ生スヘキ弊害ヲ防カントシテ如斯キ規定ヲ設ケタルモノナリト推測スルコトヲ得ハシ投票ハ所謂連記無記名ノ制ニ依リ被選舉人ノ氏名ヲ選舉スヘキ定數丈ケ記載シ選舉人ノ氏名ハ之ヲ記載セス封緘ノ上掛長ニ差出シ其際選舉人ノ氏名住所ヲ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入シ投票函ハ投票ヲ終ルマテ之ヲ開カス尙ホ選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ開票ノ上當選ヲ定ム投票ニシテ人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ被選舉人ノ何人ナルカヲ確認シ難キモノ被選舉權ナキ人名ヲ記載セルモノ及ヒ被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノハ之ヲ無效トシ記載ノ人員選舉スヘキ定數ニ過キ又ハ不足スルモノノ如キハ之ヲ無效トセス定數ニ過タルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス而シテ現ニ投票ヲナサントスル者カ果シテ眞ノ選舉權者ナルヤ否ヤ從テ其投票ヲ受理

スベキヤ否ヤ並ニ受理シタル投票カ右ノ有效條件ヲ備フルヤ否ヤノ問題ハ選舉掛ニ於テ之ヲ議決シ可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決シ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同シキトキハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ當選者ヲ定ム選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名シ投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ終了スルニ至ルマテ之ヲ保存スベキモノトス選舉終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知スヘク其當選ヲ辭セントスル者ハ五日以内ニ之ヲ市町村長ニ申立タルコトヲ要シ又一人ニシテ數級又ハ數區ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應スベキヤヲ申立ツヘキモノニシテ其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ選舉ヲ辭スル者ト看做シ辭任ノ理由正當ナラサル場合ニハ市町村ハ之ニ對シ名譽職拒辭ニ伴フ制裁處分ヲ與フルコトヲ得如斯ク當選者ハ其當選ノ事實ニ依リ當然議員トナルモノニ非スシテ當選ノ告知ヲ受ケタル後五日以内ニ當選ヲ辭スル旨ヲ申立テサルカ又ハ何レノ級若ハ區ノ選舉ニ應スルヤヲ申立テタル場合ニ於テ始メ

市街宅地何坪内建設

一 木造瓦葺平家 公稱價額書 壹棟

此建坪何坪也

右建物ハ東京市何區何町何番地何某ノ所有タルコトヲ證ス

年 月 日 右何番地地主又ハ差配人

某國

第三 不動産ノ性質狀況及ヒ公課等ヲ證スヘキ證書第二四條第一項民事訴訟

法第六四三條第一項第三號第四號ニモ證明スルコトヲ要ス(附屬書類)

(甲) 土地ニ付テハ國郡市町村字番地目反別若クハ坪數土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ其土地ニ付キ納ムヘキ一年ノ租稅其他ノ公課ヲ證スヘキ證書ヲ就實申立書ニ添附スルコトヲ要シ之カ爲メハ其公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得(民事訴訟法第六四三條第二項參照) 附屬書類

證明書 不動産ノ購買 不動産購買ノ申立

三四

◎ 書式第叁號
土地臺帳謄本

[illegible]

◎ 臺式第四號

公課證明書

市海字組同製內製器

公課證明願

東京市何區何町何番地所在（一）
（二）
（三）
（四）
（五）
（六）
（七）
（八）
（九）
（十）
（十一）
（十二）
（十三）
（十四）
（十五）
（十六）
（十七）
（十八）
（十九）
（二十）
（二十一）
（二十二）
（二十三）
（二十四）
（二十五）
（二十六）
（二十七）
（二十八）
（二十九）
（三十）
（三十一）
（三十二）
（三十三）
（三十四）
（三十五）
（三十六）
（三十七）
（三十八）
（三十九）
（四十）
（四十一）
（四十二）
（四十三）
（四十四）
（四十五）
（四十六）
（四十七）
（四十八）
（四十九）
（五十）
（五十一）
（五十二）
（五十三）
（五十四）
（五十五）
（五十六）
（五十七）
（五十八）
（五十九）
（六十）
（六十一）
（六十二）
（六十三）
（六十四）
（六十五）
（六十六）
（六十七）
（六十八）
（六十九）
（七十）
（七十一）
（七十二）
（七十三）
（七十四）
（七十五）
（七十六）
（七十七）
（七十八）
（七十九）
（八十）
（八十一）
（八十二）
（八十三）
（八十四）
（八十五）
（八十六）
（八十七）
（八十八）
（八十九）
（九十）
（九十一）
（九十二）
（九十三）
（九十四）
（九十五）
（九十六）
（九十七）
（九十八）
（九十九）
（一百）

一市街宅地 何坪 申立人 二 某某公署 土地所有者 三 其何 四 某某

地租金何圓何錢也

公課金何圓何錢也

右ハ何區裁判所ニ提出ノ必要有之候ニ付キ明治何年度分公課金御證明被成下

度此段相願候也

（拾遺二） 幾頃十千八諸羅宮國二雙々文二良書二賦一々鑑即之々々眞常之々

何區何岡何番地

一、小確義又案示之且最張八平烈之效々々々焉ハ、
何

東京市何區長殿

前書證明候也

年
月
日
廣東省圖書館
某

競實法 不動産ノ競買 不動産競買ノ申立

三五

東京市何區長 何 某團

(注意一) 公課ノ證明ニ付テハ競賣申立人又ハ其代理人ニ於テ競賣ニ付セラルヘキ不動産ヲ表示シ且最近ノ年度ニ於ケル公課ノ額ヲ調査記入ノ上之ヲ證明ヲ求ムルモノトス

(注意二) 然ルトキハ當該官廳ニ於テ之ニ與書ヲ加ヘテ證明スルヲ通常トス

(注意三) 區役所ニ於テ用ユル紙ハ半紙ヲ常トスルカ故ニ此證明願書モ半紙ニ依ルヲ可トス

(乙) 建物ニ付キテハ其所在ノ國郡市町村字番地及ヒ其構造ノ種類建坪及ヒ其建物ニ付キ納ムヘキ一年ノ公課ヲ證スヘキ證書ヲ申立書ニ添附スルコトヲ要シ之カ爲メハ申立人ニ於テ公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得ヘシ而シテ實際ニ於テハ所轄行政官廳例ヘハ區役所ヨリ其證明書ヲ受クルニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得(書式第四號ニ準ス)

然レトモ此場合ニ於テモ若シ競賣セラルヘキ建物カ所轄官廳ニ届出ナキトキ

ハ前陳第二ノ要件ニ付キ生シタルト同様ナル問題ヲ生スヘシ予ハ此場合ニ於テモ先キニ第二ニ付キテ陳ヘタルト同一ノ理由ニ依リ又タ同一ノ論決スヘキモノト信ス但建物ニ付キ納ムヘキ一年ノ租稅其他ノ公課ナルモノハ存在セサルモノトシテ取扱フヘク隨テ此點ニ付キ何等ノ證明ヲ要セサルヤ勿論ナリ尙ホ實際ノ手續トシテハ第二ノ要件ヲ證明シタル書類ニ依リ同時ニ第三ノ要件ノ存在ヲ認メ得ルトキハ單ニ前者ノ證明書ヲ提出アルヲ以テ足レリトスヘク又タ第三ノ要件ヲ證明シタル書類ニ依リ同時ニ第二ノ要件ノ存在ヲ認メ得ヘキトキハ單ニ此證明書ヲ提出アルヲ以テ足レリトセザルヘカラス換言スレハ第二ノ要件ト第三ノ要件トヲ併セ證明スル證明書ノ在リ得ルモノト知ルヘシ例ヘハ登記簿ニ登記アラサル建物ニ付キ前示第二ノ要件並ニ第三(乙)ノ要件ニ付キ行政官廳例ヘハ所轄區役所ニ於テ一箇ノ書面ヲ以テ證明ヲ爲スコトアルヘク又地主等ノ私人カ私證書ヲ以テ同様ノ證明ヲ爲スコトアリ得ルカ如キ又不動産ノ登記簿ノ原本ニ依リ不動産所有ノ事實ヲ證明シ得ルト同時ニ又建物ノ所在其構造ノ種類建坪等ヲ證明シ得ルカ如キ之ナリ

競賣法 不動産ノ競賣 不動産競賣ノ申立

前陳ノ如ク第二並ニ第三(甲)(乙)ニ掲ケタル證書ヲ提出セシムル所以ハ被申立人ノ所有ニ屬セサル不動産ハ之ヲ競賣スヘカラサルカ故ニ其所有不動産ナルコトヲ確實ニシ且評價人ヲシテ不動産ノ最低競賣價額ヲ評價セシムルニ方リ不動産ノ實際ノ情況ヲ之ニ知ラシムルノ必要アルニ基クモノトス

尙ホ競賣申立人ニ於テ前陳第三(乙)ニ掲ケタル要件ヲ證明スル能ハサルトキハ競賣申立ノ際其取調ヲ裁判所ニ申請スルコトヲ得ヘシ其裁判所ハ競賣ノ申立ヲ管轄スル裁判所ヲ謂フコト勿論ナリ(第二四條第四項、民事訴訟法第六四三條第三項參照)尙ホ其取調方ノ申請書ニハ手数料トシテ法定ノ金額ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘキモノトス、民事訴訟用印紙法第一〇條第一六條參照)

次ニ法律カ前陳第三(甲)ノ要件ニ關シテハ其取調方ヲ裁判所ニ申請スルコトヲ競賣申立人ニ許サザリシ所以ハ土地ハ常ニ土地臺帳ニ其記載アルカ故ニ競賣申立人ハ當該官廳ニ所要ノ證明書ヲ求メ以テ之カ存在ヲ證明シ得ヘタ隨テ之カ證明ノ爲メ裁判所ニ取調ヲ申請スルコトヲ許スノ必要ナクレハナリ

第四 土地建物ニ付キ貸貸借アル場合ニ於テ其期限並ニ其借貸ヲ證スヘキ

此證書提出スルモノハ其證明書ニ於テ不動産ノ競賣人即チ競賣手即チ貸買手此如キ證書ヲ提出セシムル所以ハ第三ノ要件ニ付キ違フタルト同シク不動産ノ最低競賣價額ヲ評價セシムルニ方リ該不動産ノ實況ヲ評價人ニ知ラシムルノ必要アレハナリ而シテ競賣申立人ハ貸貸借證書等ノ如キ私署證書ヲ以テ之ヲ證明シ得ヘシ然レトモ其貸貸借カ登記簿ニ登記シアル場合ニ於テ不動産ノ登記簿ノ謄本ヲ提出スルトキ(前陳第二參照)ハ前掲ノ事實ニ付キ特ニ別段ノ證明書ヲ提出スルコトヲ要セス何トナレハ登記簿ノ謄本ニ依リ之ヲ證明得ヘクレハナリ(民法第六〇五條參照)

尙ホ競賣申立人カ右ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ競賣申立ノ際其取調ヲ裁判所ニ申請スルコトヲ得ヘタ此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシムヘシトハ法律ノ規定スル所ナリ(第二四條第四項、民事訴訟法第六四三條第三項參照)

然レトモ現行民法ノ規定ヲ按スルニ土地建物ニ付キ貸貸借アル場合ニ於テ其期限並ニ借貸ヲ證スヘキ證書ヲ提出セシムルノ必要アリヤ否ニ付テハ疑ナキ

能ハス。借貸ノ關係ニ依リテ生ズルモノト認メラレタル何トナレハ舊民法ノ規定ニ依レハ貸賃借ハ物權ヲ生ズルモノト認メラレタルカ故ニ一度貸賃借關係ヲ生ゼンカ之ニ基テ賃借權ハ爾後其物ヲ取得スル第三者ニ對シテモ之ヲ主張スルコトヲ得シカ故ニ競賣セラルヘキ目的物ニ付キ賃賃借ノ存在スルコトハ直チニ其物ノ價格ニ影響ヲ及ホスヲ以テ競賣ニ際シテハ其申立人ヲシテ賃賃借ノ期限並ニ借賃ヲ證明セシメ以テ該目的物ノ價額ヲ評價セシムルノ參考材料タラシムルノ必要アリシコト勿論ナリ然レトモ現行民法ノ規定ニ依レハ不動産ノ賃賃借ハ之ヲ登記シタルトキニ限り爾後其不動産ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シ其效力ヲ生ズルモノトセラルカ故ニ民法第六〇五條參照假令競賣セラルヘキ不動産ニ付キ既ニ賃賃借ノ關係ノ生シ居ルモノアリトモ該關係ヲ登記簿ニ登記スルノ手續ヲ經ナリシニ於テハ其關係ハ單ニ賃貸人ト賃借人トノ間ニ於ケル債權關係タルニ止マリ爾後其不動産ニ付キ物權ヲ取得シタル者例ヘハ其不動産ノ買受人ニ對シテ尙ホ賃借權ノ存在ヲ主張スルコトヲ得ス隨テ此如キ不動産ノ競落人即チ競賣手續ニ於ケル買

主ハ右ノ如キ賃借權ノ爲メニ毫モ制限ヲ受クルコトナク隨テ又タ此ノ如キ賃借權ノ存在スルコトアリトモ競賣セラルヘキ不動産ノ價格ニ何等ノ影響ヲ生ゼサルノ理ナリ果シテ然ラハ登記ヲ經サル賃賃借力競賣セラルヘキ不動産ニ關シテ存在スルトモ之ヲ期限並ニ借賃ヲ證明セシムルノ必要ヲ見サルモノト云フヘシ然レモ舊民法ノ規定ニ依リテ不動産ノ競賣ニ際シテハ其申但經令法理上ハ第三者ニ對抗セズ隨テ不動産ノ競落人カ法律上何等ノ制限ヲ受ケサルニモ尙モ事實ニ於テ賃賃借關係ノ存スルアラシカ該不動産ノ競落人ハ之カ引渡ヲ受クルニ付キ多少煩累ヲ蒙ムルヲ免カレサルカ故ニ右ノ如キ賃賃借ニ付テモ尙ホ前示ノ如キ證明ヲ爲サシメ以テ不動産ノ價額ヲ相當ニ評價セシムルノ規定ナリト云ハハ競賣法カ此如キ證明ヲ必要トシタル理由ヲ説明スルヲ得ン歟次ニ登記ヲ經タル賃賃借ノ存スル場合ニ於テハ競賣ニ付スヘキ不動産ノ登記簿ノ謄本ヲ提出アルニ依リ前陳第二要件參照其期限並ニ借賃ヲ知り得ルカ故ニ尙ホ特ニ此如キ事項ニ關スル證書ヲ提出スルノ必要ナシ注意スヘキ競賣法ニ準用セラルル民事訴訟法第六百四十三條ニ證書トアルハ

競賣法 不動産ノ競賣 不動産競賣ノ申立

必シモ一私人ノ作成シタル私署證書ノ爲メ云フニ非シテ公ノ權力アル公ノ機關ノ作成シタル證書ヲモ含ムモノナルコトハ殊ニ同條第一項第三號第四號等ニ公課ヲ證スヘキ書類ヲモ向テ證書ヲ文字ノ中ニ含マシムルニ據リ之ヲ認ムルヲ得ヘシ之ヲ要スルニ證書トシテ證明スヘキ書類ト解スヘキモノト信ス之ヲ予カ登記簿ノ原本ハ同時ニ不動産貸賃借ノ期限並ニ借貸ヲ證スヘキ證書タラト云フ所以ナリ前示ノ破産債權ノ爲メハ以テ不償還ノ附屬債權ニ爲メ右陳フルカ如クナルヲ以テ競賣法カ不動産ノ貸賃借ノ期限並ニ借貸ヲ證明セシムルコトヲ以テ競賣申立ノ要件トシタルハ法理上其理由ナク其當ヲ得ズモト謂ハサルヲ得ス隨テ實際ニ於テハ競賣ノ申立ヲ爲スニ方リ別ニ此如キ證明書ヲ添附スルノ必要ナシトシテ之カ取調ヲ申請スルモノアルトキハ其申請ヲ取下ケシムルノ事例アルヲ見ル

第二節 競賣手續ノ開始

第一款 一般

裁判所ハ不動産競賣ノ申立ノ可否ヲ決スルニハ競賣法ニ別段ノ規定ナキ限ハ非訟事件手續法ニ從テ其手續ヲ進行スヘキモノトス何トナレハ競賣事件ハ非訟事件ノ一タルコト前陳ヘタルカ如クナレハナリ故ニ例ヘハ裁判所ノ職員ハ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ競賣事件ニモ準用アルヘク非訟事件手續法第五條參照又タ裁判所カ必要ト認ムル場合ニ於テ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ證據調ヲ爲スコトノ如キ審問ハ之ヲ公行セサルコトノ如キ事件及ヒ審問期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘキコトノ如キ又タ裁判ニ對スル抗告ニ關スル規定ノ如キ競賣事件ニモ亦行ハルヘキモノトス

(注意)競賣法ニ依ル競賣事件ハ其數頗ル多ク一之ヲ檢事ニ通知シテ其意見ヲ求ムルコトハ頗ル煩雜ニ且ルカ故カ實際ニ於テハ大抵事件ヲ檢事ニ通知セサルカ如キモ大審院ニ於テハ常ニ事件ヲ檢事ニ通知シ其意見ヲ求ム)

第二款 競賣申立ノ却下

裁判所ハ前陳ノ手續ニ從ヒ競賣申立ノ適法ナルヲ否テ審査シ不適法ト認ムル

トキハ決定ヲ以テ其申立ヲ却下スヘキモノトス但此決定ヲ爲スニ付キ申立人ト債務者所有者トノ間ニ口頭辯論ヲ經ルコトヲ必要トセス又タ是等ノ者ニ對シテ審問ヲ爲スコトヲ必要トスルコトナシ尙ホ左ニ之ヲ詳説スヘシ

第一 却下ノ原因

申立カ不適法ナルニ於テハ却下セラルヘキヤ勿論ナリ而シテ其不適法ナル場合トハ例ヘハ其申立カ實體法上必要ナル條件第十一頁以下參照ヲ具備セザルカ又ハ事件カ申立ヲ受ケタル裁判所ノ管轄ニ屬セザルカ其他形式上必要ナル條件ヲ具備セザル場合ノ如キ之ナリ(但實際ノ手續トシテハ經令申立カ形式上ノ要件ヲ具備セザルトキト雖モ苟モ其欠缺ニシテ補正シ得ヘキ限ハ之ヲ補正セシメテ其申立ヲ許可スルヲ可トスヘク此事ハ多ク實際ニ行ハル)

第二 却下ノ裁判ノ形式

却下ノ裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス此事ニ關シテハ競賣法ニ何等ノ明文ヲ見スト雖モ非訟事件手續法(第一七條第一項)ニ裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス旨ノ明文アルカ故ニ右ノ如ク論結セザルヲ得ス

却下ノ決定中ニハ如何ナル事項ヲ掲クヘキヤニ關シテハ本法ニ何等ノ明文ヲ存セザルヲ以テ競賣開始決定ニハ一定ノ事項ヲ掲クヘキ旨ノ明文アルコト後ニ説クカ如シ申立人ノ申立ヲ却下スル旨ヲ知リ得ヘキ程度ニ於テ其旨ヲ表示スルヲ以テ足レリト信ス

尙ホ予カ本款ノ初ニ於テ右ノ決定ヲ爲スニ方リ豫メ其申立ノ當否ニ付キ申立人並ニ債務者所有者ヲ呼出シ其間ニ口頭辯論ヲ經ルコトヲ要セス又タ是等ノ者ヲ審問スルノ必要ナシト主張セル所以ハ競賣法中此ノ如キ必要アリトノ明文ヲ見ザルノミナラス非訟事件ノ一種タル競賣法ニ適用アルヘキ非訟事件手續法ニモ此ノ如キ手續ヲ經ルヲ要ストノ明文ヲ見サルニ由ル但裁判所ニ於テ之ヲ必要ト認ムルトキハ豫メ申立人並ニ其他ノ者ヲ審問シ得ヘキヤ勿論ナリ

(非訟事件手續法第一一條參照)

次に論スヘキハ申立却下ノ裁判ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ其裁判アリタル旨越テ調書ニ認ムルヲ以テ足レリトスヘキヤ(獨逸非訟事件手續法第十六條第三項)ハ一般非訟事件ニ付キ之ヲ認許スル旨ノ明文アリ又ハ必ス裁判ノ原本ヲ作成

スルコトヲ要スルヤナフコト之ナリ此如キ問題ヲ生スル所以ハ競賣ノ申立ヲ認許スル場合ニ付テハ競賣法第二十五條ノ規定アルニ徴シテ必ス競賣開始決定ノ原本ノ作成ヲ要スルコトヲ知り得ヘキモ申立却下ノ場合ニ付テハ別ニ同法ニ明文ナキヲ以テナリ

然レトモ非訟事件手續法第一七條第二項ニハ裁判ノ原本ニハ判事署名捺印スヘシトアリテ其但書ニ申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之ニ署名捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得トアルニ徴スレハ競賣申立却下ノ裁判ハ原本ヲ作成シ之ニ基キテ告知スルヲ本則トスレトモ又タ前陳獨逸法律ニ於ケルカ如キ便法ニ從ヒ口頭ニ依リ却下ノ決定ヲ爲シ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得ヘキモノト云フヘシ

尙ホ前示ノ但書ニ付キテモ先ツ却下ノ裁判ヲ調書ニ記載シ然ル後ニ之ヲ言渡スヘキモノニシテ之ヲ要スルニ却下ノ裁判モ開始決定ト同様ニ必ス原本ヲ作成スルカ又ハ原本ニ代フルヘキモノ(即チ調書ヲ作成シタル後之ニ基キテ言渡スヘキモノ)ナリト解スル論者ナキニ非サルヘキモ此説タルヲ調書ノ性質ヲ明

ニセサルニ基ク誤解ト云ハサルヲ得ス何トナレハ調書ハ法廷ニ於ケル出來事ヲ明白ニスル書類ナルカ故ニ未タ事柄本件ニ付テ云ヘハ却下ノ裁判ノ言渡シ發生セサルニ拘ハラズ既ニ之ニ付キ調書ニ在リ得ヘキ理ナキカ故ニ前陳ノ如ク調書ノ記載ヲ以テ原本ニ代フル場合ニ於テハ却下ノ裁判ハ單純ニ口頭ニ依リ之ヲ言渡シ得ヘキモノト云ハサルヲ得ス

第三 却下ノ裁判ノ告知

(甲) 告知ノ手續

申立却下ノ決定ハ之ヲ受タル者ニ告知スルニ依リ其效力ヲ生スルモノナルカ故ニ非訟事件手續法第一八條之ヲ申立人ニ告知セサルヘカラス其告知ノ方法ニ付キテモ本法ニ別段ノ規定ナキヲ以テ非訟事件手續法第一八條ノ規定ニ則リ裁判所ニ於テ相當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ申立人ニ告知スヘク唯其告知ノ方法場所及ビ年月日ヲ裁判ノ原本ニ記入スルコトヲ要スルノミナルニ當ルベシ

(乙) 告知ヲ受タル人

申立却下ノ決定ハ之ヲ何人ニ告知スヘキヤニ付テモ本法ニ別段ノ規定ナキヲ

以テ非訟事件手續法ニ從テ之ヲ決スヘキモノト云フヘシ而シテ同法ニ依レハ之ヲ申立人告知スルヲ以テ足レリトスヘク債務者所有者ニ之ヲ告知スルノ必要ナシト信ス何トナレハ非訟事件ニ在テハ裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルヲ以テ足ルモノニシテ(非訟事件手續法第一八條第一項)競賣事件ニ於テ申立却下ノ裁判ヲ受クル者ハ即チ申立人其者ノミナレハナリ譯言スレハ裁判所ノ却下ノ裁判ノ内容カ目的トスル所ノ者ニ申立人ノミナレハナリ更ニ換言スレハ爲メニ裁判却下ヲ裁判ヲ下シタル目的ノ存スル所ハ申立人其者ノミニシテ債務者及ヒ所有者ニ非ナレハナリ

第四 却下ノ裁判ノ效力

却下ノ裁判ハ告知アラタルトキヨリ其效力ヲ生スルモノナルコト前陳ノ如シ而シテ其效力トシテハ單ニ申立人ニ對シ申立ヲ受理セタルノ結果ヲ生スルニ止マリ隨テ又其裁判ニ對シテハ單ニ申立人ニ限り不服ヲ申立テ得ヘキモノトス(但申立人ハ不法點ヲ補正シテ更ニ競賣ノ申立ヲ爲シ得ヘキヤ勿論ナリ)

第五 却下ノ裁判ニ對スル不服ノ申立

(甲) 不服ノ申立ヲ爲シ得ヘキ者

申立却下ノ裁判ニ對シテハ何人ヨリ不服ノ申立ヲ爲シ得ヘキヤニ付テハ本法ニ別段ノ規定ナキヲ以テ非訟事件手續法ニ從テ之ヲ決セサルヘカラス而シテ同法ニ依レハ競賣申立人カ申立却下ノ裁判ニ對シ抗告ニ依リ不服ヲ申立テ得ルヤ勿論ナルモ非訟事件手續法第二〇條債務者及ヒ所有者ハ此裁判ニ對シ抗告ヲ申立ツルコトヲ得ス何トナレハ是等ノ者ハ却下ノ裁判ヲ受ケタル者ニ非ス又タ此裁判ニ因リ權利ヲ害セラレルコトナケレハナリ非訟事件手續法第二〇條第一項

(乙) 不服申立ノ期間

却下ノ裁判ニ對シテ抗告ヲ申立ツヘキ期間ニ付キテハ本法ニモ非訟事件手續法ニモ別段ノ制限ヲ存セス其抗告ハ法律ニ所謂即時抗告ニハ非ナルナリ隨テ申立人ハ申立却下ノ決定ニ對シテ何時タリトモ抗告ヲ申立テ得ヘキモノト云ハサルヲ得

(丙) 不服ノ申立並ニ之カ裁判ノ手續

抗告ノ形式等ニ付テハ民事訴訟法ノ抗告ノ規定ニ準スヘク之ニ對スル裁判手續ハ非訟事件手續法ノ規定並ニ民事訴訟ノ抗告ニ關スル規定ニ準シテ之ヲ爲スヘキモノトス(非訟事件手續法第二五條)

尙ホ印紙ノ貼用ニ付キ民事訴訟用印紙法第六條第一同第十六條等ヲ參照スヘシ

(丁) 抗告ノ裁判ニ對スル不服ノ申立

抗告裁判所カ抗告ヲ理由ナシトシテ棄却シタルトキ其裁判ニ對シテ再度抗告ヲ爲シ得ヘキヤ否ニ付テモ本法ニ別段ノ明文ナキカ故ニ非訟事件手續法ニ依テ之ヲ決セサルヲ得ス而シテ同法ニ依レハ抗告裁判所ノ裁判カ法律ニ違背シタルモノタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ニ對シテ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニテ其他ノ理由例ヘハ抗告裁判所カ事實ヲ不當ニ認定シタルトノコトニ依リ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス(非訟事件手續法第二四條)

此再抗告ノ期間申立手續及ヒ裁判手續ニ付キテハ右ニ抗告ニ付キ陳ヘタル所

ニ從フ

再抗告ヲ理由ナシトシテ却下シタル裁判ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ非訟事件ニ在テハ抗告裁判所ノ裁判ニ對スル抗告所謂再抗告ハ之ヲ許スコト前陳ノ如クナルモ之ニ對スル裁判ニ付キ尙ホ抗告ヲ申立ツルコトハ全然之ヲ許サザレハナリ(非訟事件手續法第二〇條以下)從テ競賣事件ニ付テ云ヘハ當ニ競賣申立ノ却下ノ裁判ニ對シ第三次ノ抗告ヲ爲シ能ハサルニ止マラス競賣事件ニ於ケル其他ノ裁判例ヘハ競落許可決定ニ對シテモ亦第三次ノ抗告ヲ申立ツル能ハサルモノトス此事タルヤ我大審院ノ認ムル所タリ更ニ競賣申立却下ノ裁判ニ付キテ説明セハ區裁判所ノ却下ノ決定ニ對シテハ管轄地方裁判所ニ抗告シ得ヘク同裁判所ニ於テセル抗告棄却ノ決定カ法律ニ違背スルトキハ更ニ管轄控訴院ニ抗告ヲ申立テ得ヘキモ同院ノ裁判ニ對シテハ不服ノ理由ノ何タルヲ問ハス大審院ニ抗告スルコトヲ得ヘカラス

第三款 競賣手續開始ノ決定

第一 一般

競賣ノ申立ヲ受ケタル裁判所ニ於テ其事件カ同裁判所ノ管轄ニ屬シ且申立人カ申立ヲ爲スノ權利ヲ有シ其申立書ニ形式上遺漏ナシト認メタルトキハ競賣手續ヲ開始スヘキ旨ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス第二五條第一項

第二 開始決定ノ形式

競賣手續ヲ開始スル旨ノ裁判ハ決定ニシテ該決定ニハ左ノ事項ヲ記載シ且之ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スヘキモノトス第二五條第二項 書式第五號參照

一 申立人ノ氏名住所

二 債務者及ヒ所有者ノ氏名住所

三 競賣ニ付スヘキ不動産

四 競賣ノ原因タル事由

五 年月日

右陳フルカ如クナルヲ以テ競賣ノ開始ニ付テハ其申立書又ハ調書ニ決定ヲ記

特許代理業者登録規則第十三條(三)刑事訴訟法第四十條(四)民事訴訟法第三十二條是ナリ辯護士法第十四條ニハ辯護士ハ(一)相手方ノ協議ヲ受ケテ之ヲ援助シ又ハ委任ヲ受ケタル事件(二)判事檢察事職中取扱ヒタル事件(三)仲裁手續ニ依リ仲裁人ト爲リテ取扱ヒタル事件ニ付其ノ職務ヲ行フコトヲ得ストアリ特許代理業者登録規則第十三條ニハ特許代理業者ハ相手方ノ代理人トシテ取扱ヒタル事件又ハ特許局在職中取扱ヒタル事件ニ付其ノ業務ヲ行フコトヲ得スト規定セリ辯護士法ニハ訴訟事件ト明言セルヲ以テ狭ク解釋シテ其繫争事件ニ關係シタルニ非スシテ其事件ノ目的タル權利ニ關スル他ノ事件ニ付會テ關係シタルコトアルモ此規定ノ適用ヲ受クル限リニ在ラスト解釋スルヲ至當トス例ヘハ會テ甲ノ爲メニ乙ニ對シテ或不動産ノ權利確認ノ訴ヲ起シタル者ハ此事件ニ關スル乙ノ訴訟代理人ト爲ルコトハ法ノ禁スル所ナレトモ他日丙ノ爲メニ甲ニ對シテ其不動産ノ取戻ノ訴訟ヲ起スコトハ妨ケ無シ特許代理業者登録規則ニ於タル單ニ事件トアルヲ以テ稍疑ヲ掃テ餘地アルカ如シト雖已ニ事件ニ云フ以上ハ其事件ト解スルニ妥當ナリト故ニ會テ審査官トシテ或特許出

願ニ對シテ他ノ査定ヲ爲シタル者カ辭職シタル後同一出願ノ再審査ノ請求ニ於テ請求人ノ代理人タルコトハ得サルモ他日此出願カ特許ヲ得タル後此特許ノ無効ヲ審判ヲ請求セル者アル場合ニハ其請求人又ハ被請求人ノ代理人タルコト妨ナシト云ハサルヘカラス何トナレハ同一發明ニ關スル事件ナリト雖全ク別箇ノ事件ナルヲ以テナリ刑訴第四十條及民訴第三十二條ノ規定ハ更ニ明白ニ其裁判事項ナルコトヲ示セリ然ラハ審判事務章程ノ規定モ同様ニ解スヤ余ハ之ニ疑ヲ存ス抑モ審判事項ハ總テ特許權又ハ意匠商標ノ專用權ノ成立又ハ其效力若ハ範圍ニ關スル爭議ニシテ常ニ審査官ノ査定ノ疑議又ハ當否ト相關連スルモノナリ此場合ニ若シ審判官ニシテ曾テ有シタル意見ヲ固執スルコトアラハ審判ノ正當得テ期スヘカラス故ニ審判章程第八條第三號ノ規定アリタルナリ若シ此規定ヲ其審判事件ニ限ルトセシカ拒絶査定ニ不服アル場合ノ審判事項ノ外ニハ適用ナシト云ハサルヘカラス是レ立法ノ精神ニ非ス故ニ審判官ハ曾テ審査官トシテ取扱ヒタル特許意匠商標ニ關シテハ如何ナル審判事件ニテモ取扱フコトヲ得スト解釋スル方穩當ナルヘキカ

第二 審判手續 特三二二三三四及三七特施四八乃至五六五八及五九

審判ノ請求ヲ爲ス者ハ正副二通ノ審判請求書ヲ提出スヘシ此請求書ニハ(一)請求人及ヒ被請求人ノ氏名住所(二)審判事件ノ表示(三)請求ノ要旨及ヒ理由ヲ記載スヘシ特許局ニ於テ請求書ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被請求人ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シテ正副二通ノ答辯書ヲ差出サシム審判手續ニハ書面審理ト口頭審判トノ二方法アリ然レトモ常則トシテ書面審理ノ方法ヲ執リ事件ノ進行上必要ト認メタル場合又ハ當事者雙方ノ申立アル場合ニ於テハ審判長ハ口頭審判ヲ爲スコトヲ得口頭審判ハ之ヲ公開ス書面審理ノ場合ニ於テ必要アルトキハ期限ヲ付シテ更ニ請求人被請求人ヨリ辯駁書答辯書ヲ差出サシム辯駁書及答辯書ニハ(一)審判番號(二)請求人及ヒ被請求人ノ氏名住所(三)審判事件ノ表示(四)答辯又ハ辯駁ノ要旨及ヒ理由ヲ記載スヘシ凡ソ審判請求書辯駁書及ヒ答辯書ニハ之ニ記載シタル事實ヲ證スヘキ證據物件ヲ添附スヘシ口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ期日ヲ定メ之ヲ當事者雙方ニ通知スヘシ審判

廷ニ於テハ日本語ヲ用ユヘシ日本語ニ通セザル者ハ通事ヲ用ユルコトヲ得口
頭審判ニハ調書ヲ作リ審判長及ヒ之ヲ作リタル官吏署名捺印スヘシ
請求人若ハ被請求人成規又ハ指定ノ期間内ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササル
トキ又ハ辯論期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ相手方ノ意見ヲ聽キ審判ヲ終
結スルコトヲ得
審決書ニハ(一)審判番號(二)請求人及ヒ被請求人ノ氏名住所(三)審判事件ノ表示(四)
請求答辯又ハ辯駁ノ要領(五)審決ノ主文及ヒ理由(六)審決ノ年月日ヲ記載ス
審決ニ關スル費用ノ負擔及ヒ其ノ費用額ノ決定ヲ受ケントスル者ハ申請書ヲ
作リ費用計算書其他必要ナル書類ヲ添附シテ之ヲ審判長ニ差出スヘシ審判長
ハ必要ト認ムルトキハ相手方ノ意見ヲ聽キテ之ヲ決定ス大審院ニ於テ費用ノ
負擔ヲ言渡シタル費用額ニ付テモ亦同シ(民訴第七十二條乃至第八十二條第八
十六條及民事訴訟費用法ノ準用アリ)
特許局ハ審查審判及ヒ報酬額ノ決定ニ關シ必要アルトキハ當事者ノ申立ニ因
リ證據調ヲ爲シ又ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ證據調ヲ囑託ス

ルコトヲ得

第三 上告

普通之ヲ上告ト稱スレトモ特許法ニハ單ニ出訴ト稱ス總テノ審判ニ對シテ大
審院ヘ出訴スルコトヲ得ルニ非ス再査定ニ對スル審判ニ對シテハ上告ヲ許サ
ス此他ノ場合即チ抵觸査定ニ對スル審判權利確認ノ審判及ヒ特許無効ノ審判
ニ對シテ不服アル者ハ其審決カ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコトヲ
理由トスルトキニ限り大審院ニ上告スルコトヲ得上告ハ審決書到達ノ日ヨリ
六十日以内ニ之ヲ爲ササルヘカラス上告及ヒ之ニ關スル裁判ニ付テハ民事訴訟
法ノ上告及ヒ其裁判ニ關スル規定ヲ準用ス(特三五)

大審院ニ於テ出訴ノ理由アリト認ムルトキハ原審決ヲ破棄シ更ニ審判ヲ爲サ
シムル爲メ事件ヲ特許局ニ差戻シ特許局ニ於テハ更ニ之カ審判ヲ爲ササルヘ
カラス而シテ大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付發表シタル意見ハ
特許局ヲ羈束ス出訴ハ元來法律ヲ適用シタルヤ否法律ヲ不當ニ適用シタルヤ
否ヤノ爭訟ニ係ルヲ以テ大審院ニ於テ法律點以外ニ意見ヲ發表スヘキ筈ナク

縦令之ヲ判決理由中ニ於テ表示シタリトスルモ特許局ヲ驅東スルノ效力ナキモノトス(特三六)

第二節 無効審判

第一 無効原因

無効原因ハ特許法第二十條ニ規定スル所ナリ曰ク

- 一 第一條及ヒ第二條ニ違反シタルモノ
 - 二 發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セザリシモノ
 - 三 發明ノ實施ニ必要ナラサル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セシモノ
- (一)
- イ 工業上ノ物品又ハ方法ニ關セサル發明ニ與ヘタル特許
 - ロ 最先ニ非サル發明ニ與ヘタル特許
 - ハ 發明ニ非サルモノニ與ヘタル特許
 - ニ 發明者ニモ非ス又其承繼人ニモ非サル者ニ與ヘタル特許

ホ 飲食物嗜好物醫藥及ヒ其調合法秩序風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ又ハ二年内ニ於テ試驗ノ爲メ用キラレタルニ非スシテ公知又ハ公用トナリタルモノニ與ヘタル特許

此等ノ原因ニ關シテハ已ニ第一條第二條ノ說明ニ際シテ述ヘタル所ヲ參照スルトキハ自ラ會得セラルヘシ唯ニノ場合ニ關シテ少シク説クヘキコトアリ
獨法主義ニ依レハ特許ハ或發明ニ對シテ賦與スルモノニシテ何人カ之ヲ出願スルトモ其發明ニシテ特許ヲ與フヘキモノト査定セラルトキハ最先ノ出願者ニ之ヲ與フルナリ故ニ最先ノ出願者ニ非サル者ニ與ヘタル特許ハ何人ト雖其無効ヲ主張スルコトヲ得レトモ他人ノ發明ヲ竊取シタル者ノ特許ハ其ノ被害者ニ非サレハ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス若シ被害者ニシテ無効ノ審判ヲ請求セサレハ其特許ハ完全ナル效力ヲ有スルナリ之ニ反シテ我特許法ニ於テハ特許ハ其ノ發明者又ハ其承繼人ニ非サレハ受クルコトヲ得サルモノナルヲ以テ此條件ヲ缺クトキハ何人ト雖其特許ノ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ルナリ

(二) 發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セザリシ場合ヲ以テ無効ノ原因ト爲セル理由ニ至リテハ疑ナキ能ハス發明ハ之ヲ實施シ得ヘキモノナラサルヘカラサルコトハ已ニ之ヲ述ヘタリ而シテ明細書ニ於テハ詳細ニ其發明ヲ説明スヘキモノナルコト特許法施行細則第二十八條ニ明言スル所ナリ故ニ發明ノ實施方法モ亦之ヲ記載スヘキハ當然ナリト雖之ヲ記載セザリシカ爲メニ特許ヲ無効トスルハ甚タ酷ナルカ如シ夫レ實施方法ハ發明ノ範圍ニ非ス故ニ其發明ニシテ他人カ知得シ得ヘキ程度ニ在ル以上ハ必スシテ其實方法ヲ詳説スルヲ要セタルヘシ若又之ナクシテ其發明カ如何ニシテ實施シ得ヘキヲ解シ難キ程度ニ於テ必要ナル方法ナリトスレハ此方法ヲ缺カ爲メニ發明ハ實施シ得ヘカラサルモノナルヘシ然ラハ是恰モ原理原則ヲ發見シタル場合ト等シク所謂發明ニ非ス已ニ發明ニ非ストスレハ特許法第一條ニ違反シタル特許ナルヲ以テ第二十條第一號ニ依リ無効タルモノニシテ故ラニ第二號ノ規定ヲ要セサルナリ若又發明ノ範圍ニ屬スル實施方法ナリトセンカ國家ハ特許ノ出願ヲ強制セサルト同シタ發明ノ一部ヲ祕密ニシテ他ノ一部ニノ

ミ特許ヲ出願スルヲ拒ムヘキニ非ス但出願セル部分カ獨立シテ存在シ得サルモノナルトキハ是發明ニ非サルヲ以テ第一號ノ規定ニ該當シ無効ノ特許ト爲ルヘシト雖モ荷クモ獨立シテ一定ノ作用ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナルニ於テハ之ニ特許ヲ與フヘキハ當然ニシテ他ノ部分ノ有無ニ拘ハラズ又其ノ特許ノ實施ニ必要ナルト否トニ拘ハラズ之ヲ無効トスヘキ理由ナシ

(三) 發明ノ實施ニ必要ナラサル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セシカ爲メニ特許ヲ無効トスルニ至リテハ更ニ奇ナリト云フヘシ(二)ノ場合ニ於テ實施方法ノ記載ヲ發明ノ範圍即チ所謂特許請求以外ニ於テ此發明ヲ實施スルニ必要ナル方法ヲ説述スヘキ趣旨ナリト解スルヲ正當ナリトスルトキハ本項ハ特許請求範圍以外ニ於テ無用ノ記述ヲ爲シタル場合ト見サルヘカラス無用ノ説述アリタリトモ特許請求範圍ニシテ明白ナリニ於テハ之ニ與テタル特許ヲ無用ノ記述アルカ爲メニ無効トスルニ必要ナシ若又請求範圍ヲ過大ニ記述シタル場合ナリトモ之カ實施方法ニ非ズル過大ニ記載ニ關シテハ何故ニ之ヲ無効ノ原因トセンアルヲ解スルモ苦ムナリ之ヲ要スル(二)及(三)其ニ特許請求範圍以外ノ

記述ト見サルニカラス蓋シ立法ノ趣旨ハ施行細則第二十八條ニ規定セル如ク明細書ニ於テハ詳細ニ其發明ヲ説明セサルヘカラスナルニ故テハ不必要ナル記述ヲ爲シ又ハ必要ナル記述ヲ爲サズシテ世人ヲ誦ハスコトヲ禁セント欲セルナリ公衆ヲシテ發明ヲ誤解セシメ又ハ其發明ヲ解スルコトヲ得ナラシムルハ特許發明ヲ公示スル制度ノ趣旨ト反スルモノナルヲ以テ國家力之ヲ嫌忌スヘキハ當然ノ事理ナリ故ニ之ニ對シテ一定ノ制裁ヲ設ケントスルハ理ナキニ非スト雖モ是レ申告主義六二頁以下參照ヲ執ル立法ニ於テ言フヘキ所ニシテ審査主義ノ立法ノ下ニ在リテハ執ルヘカラサルナリ何トナレハ審査主義ニ在リテハ特許局ハ審査ノ際ニ其發明ノ實施ニ必要ナル事項ノ欠缺又ハ無用ノ記述カ其發明ヲ誤解セシメ又ハ解スルコトヲ得ナラシムルカ如キ場合ニハ或ハ其出願ヲ訂正セシメ或ハ之ヲ却下スヘキ責任アリ此責任ヲ盡サスシテ之ニ特許ヲ與ヘテ他日其ノ故意ノ記述又ハ不記ヲ理由トシテ之ヲ無効トスルハ穩ナラス尤モ第一條又ハ第二條ニ違反シタル特許ノ如キハ是レ特許ノ根本タル發明又ハ特許ヲ受タル主體ニ關スル欠缺アル場合ナルヲ以テ到底之ヲ有

効ノ特許トシテ存在セシムルコトヲ得サル場合ナリト雖モ(二)及ヒ(三)ノ場合ニ於テハ單ニ其明細書ノ訂正ニ依リテ救済シ得ヘキモノナリ

以上第二十條ニ列記セル場合ノ外ニ無効ノ原因ナシ例之ヘハ特許局ニ於テ審査手續ヲ誤リタルコト出願ノ形式ノ缺タル所アリタルコト等ノ事實ハ特許ノ無効ノ原因ト爲スコトヲ得ス然レトモ特許ノ無効ト云フ以上ハ特許ナル行政處分ノ成立シタルコトヲ要スルコト勿論ナリ(特許ノ無効ヲ以テ特許處分ノ不成立ト解スルトキハ斯ノ如ク説クコトヲ得ス)故ニ特許ヲ與フル權限ナキ者例ヘハ農商務大臣カ特許ト稱スル處分ヲ爲シタリトテ法律ノ所謂ル特許ニ非ス故ニ之ニ對シテ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス此場合ニハ始メテ特許ナキナリ之ニ反シテ苟クモ特許局長カ特許證ヲ下附シタルトキハ特許ナル行政處分ハ成立スルヲ以テ之ニ對シテ第二十條ノ原因ヲ以テ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

第二 無効審判ノ效果

一 特許ハ第二十條ノ無効原因ノ存在ノ爲メニ當然無効タルニ非ス審判ニ依

ル無効ノ宣告ヲ確定ニ因リテ始メテ無効ト爲ルナリ。特許ノ無効ト謂フハ法律行爲ノ無効ト同意義ニ非ス。法律行爲ノ無効ハ其法律行爲ノ不成立ノ義ナリ之ニ反シテ特許ハ無効ノ原因ノ存在ニ拘ハラス成立ス但無効原因アルトキハ何人モ無効審判ノ請求ヲ爲スコトヲ得審判ニ由リテ無効ト審決セラレ此審決カ確定スルトキハ特許ハ將來ニ效力ヲ失フノミナラス初ヨリ成立セザリモノト看做サルナリ初ヨリ成立セザリモノト看做サルルト雖審決ノ確定マラハ完全ニ成立シタルナリ此ノ過去ニ於テ成立シタル已成ノ事實ハ後ノ審決ニ因リテ消滅スヘキニ非ス故ニ例ヘハ從來納付シタル特許料ノ如キ之ヲ還付スヘキ限ニ非ス又他人ニ特許發明ヲ許シタル場合ニハ已ニ經過シタル期間ニ相當スル使用料ノ如キモ之ヲ還付スルヲ要セス反對説アリ然レトモ審決確定後ハ初ヨリ成立セザリモノト看做サルルヲ以テ其以前ニ特許ヲ侵害シタル者アリトモ之ニ對シテ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス又之ニ刑罰ヲ科スルコトヲ得ス

二 無効ノ審判ハ何人モ之ヲ請求スルコトヲ得利害關係アル者ニ非アレハ訴

權ナシト云フ主義ハ我特許法ノ取ラサル所ナリ蓋シ特許ノ無効ト謂フハ一面ニ於テハ特許處分(行政處分)ノ取消ヲ意味スルナリ故ニ本來國家自ラ進ミテ之ヲ爲スヘキモノナリ唯無効タルベキ特許ニモセヨ一旦成立シタル以上ハ其ノ成立ニ依リ害ヲ受クヘキ公衆ニシテ之ヲ爭ハサルニ於テハ必スシモ國家自ラ進ミテ之ヲ取消スコトヲ要セス是レ無効ノ審判ハ請求者アル場合ニ限リテ之ヲ行フ主義ヲ取リシ所以ナリ或ハ立法論トシテ利害關係者ニ非サレハ訴フルコトヲ得スト主張スル者アリト雖特許權ハ直ニ營業ノ自由ト撞着スルモノニシテ無効タルヘキ特許ノ成立ニ由リテ害ヲ受クル者ハ必スシモ所謂利害關係者ノミナラス廣キ意味ニ於テ天下公衆皆利害關係者ナリ故ニ何人ニモ無効審判ヲ請求スルコトヲ得セシメタルハ至當ノ立法ナリ

三 無効ノ審判ハ何時ニテモ請求スルコトヲ得獨逸特許法ノ如キハ特許發明カ他ノ出願者ノ特許ノ目的物タル場合及ヒ他人ノ發明ヨリ竊取セシモノナル場合ノ外ハ特許公告後五年ヲ經過スルトキハ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ許サス是レ特許ヲ賦與スヘキモノナルヤ否ヤハ其出願ノ當時ニ於テ之ヲ判斷ス

ヘキモノナルニ久シク歲月ヲ經過シタル後ニ至リテ更ニ當初ノ査定ノ當否ヲ審理スルハ或ハ正鵠ヲ誤ルノ虞アルカ故ナリ我特許法ハ之ニ倣ハス多數ノ立法例ニ從テ何時ニテモ無効審判ノ請求ヲ許セリ。無効審判ハ已ニ取消サレタル特許又ハ年限ノ滿了セル特許ニ對シテモ亦之ヲ請求スルコトヲ得無効審判請求ノ要件トシテ特許ノ存在シタルコトヲ要スルハ勿論ナレトモ現ニ其ノ存在スルコトヲ要セサルナリ已ニ消滅シタル特許ト雖モ其無効ヲ審決セラレンコトヲ望ムヘキ場合ハ稀ナラス例ヘハ其消滅以前ニ於ケル行為ニ依リ告訴ヲ受ケタル者又ハ賠償ノ請求ヲ受ケタル者ハ無効ノ審決ニ因リテ其責ヲ免カルルコトヲ得ヘケレハナリ。四 無効審決ハ獨リ當事者間ニ於テ其特許ノ效力ヲ認メサルニ非ス全然特許ヲ無効タラシムルナリ換言スレハ當事者間ノ法律關係ニ關シテ宣言スルニ非スシテ特許ノ無効ヲ社會ニ向テ宣言スルナリ審判ハ當事者ノ爭議ヲ特ツテ之ヲ爲スト雖審決スル所ハ直接ニ當事者間ノ法律關係ニ非スシテ特許ノ無効ニ在ルナリ是レ無効審判カ特色アリト稱セラルル所以ナリ或ハ之ヲ以テ無効審

判ハ行政訴訟ノ一種ナリト稱ス其理由トスル所ハ特許ナル行政處分ノ目的タル特許權カ法律上成立シ有ルヤ否ヤヲ審決スルモノナルヲ以テ行政訴訟ナリ無論此權利ハ私權ナルヲ以テ此權利ノ範圍所屬又ハ其移轉等ニ關スル爭議ハ司法裁判ノ主管ナリト雖其權利カ成立シタルヤ否ヤハ行政法規ノ問題ナリト謂フナリ。無効審決ノ效力ハ當事者間ニ限ラルヘキニ非スト雖無効審判請求ノ却下ハ之ニ反シテ當事者間ニミ効力アリ故ニ甲ナル者カ無効審判ノ請求ヲ爲シテ却下セラルルトモ他ノ乙丙丁ハ同一特許ニ對シテ更ニ無効審判ノ請求ヲ爲スヲ妨ケス蓋シ請求ノ却下ハ其特許ノ效力ヲ確保セルニ非スシテ請求人ノ主張ノ理由ナキヲ宣言スルニ止マルヲ以テナリ故ニ他人カ更ニ理由アル主張ヲ爲シテ其特許ノ無効審判ヲ請求スルヲ妨ケサルナリ。五 特許ノ無効ヲ決定スルハ特許局審判ノ專屬事項ニシテ行政裁判所又ハ司法裁判所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得タルハ爭ナキ所ナリ故ニ例ヘハ特許權侵害ニ因リ損害賠償ノ訴訟ニ於テ其ノ特許ノ無効ノ理由ヲ以テ抗辯ヲ爲ストモ司法

裁判所ハ仲間判決ヲ以テ特許ノ無効ヲ決定スルコトヲ得ヌ又權利確證ノ審判ニ於テ特許ノ無効ヲ主張スル者アル場合ニ於テモ當事者ノ申立ニ依リ特ニ無効ノ審判ヲ開クニ非サレハ特許ノ無効ノ理由ヲ以テ審決ヲ爲スコトヲ得サルナリ(反對ノ審決例第四八七號)之ヲ要スルニ特許ノ無効ハ必ス特許無効ノ審判ヲ待テ始メテ決定セラレ他ノ審判又ハ裁判ニ於テハ絕對的ニ特許ノ無効ヲ決定スルコトヲ得サルハ勿論關係的即チ其訴訟當事者間ニノミ效力アル無効決定モ亦爲スコトヲ得サルナリ

六 特許發明ノ一部ニ於テ無効ノ原因ノ存在スル場合ニ於テハ特許ノ一部無効ノ審決ヲ爲スコトヲ得ヘシ但シ一部無効ノ審決ヲ爲スニハ其殘部カ獨立シテ發明タルコトヲ得ヘキ場合ニ限ルナリ若シ無効原因ノ存スル部分ヲ分離シタル殘部カ獨立ノ發明トナリ得サル場合ニハ一部分ニ存在スル無効原因ニ因リテ全部ノ無効ヲ審決セサルヘカラス

一部分ヲ無効ト爲シタル場合ニ殘部カ尙獨立シタル發明トシテ特許ノ目的トナリ得ル場合ヲ誤解シテ同一特許ノ下ニ數箇ノ發明カ保護セラルル場合ト爲

スヘカラス特許ハ常ニ一發明ニ對シテ與ヘラレ數箇ノ發明ニ對シテ一特許ヲ與フルコト無シ故ニ特許ノ出願ヲ爲スニハ必ス一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘサルヘカラス(第十一條)然レトモ此ニ一發明ト稱スルモノハ之ヲ分割シタル結果其各部分カ獨立ノ考案トシテ特許ノ目的ト爲リ得サルモノニ限ラス其各部ノ考案カ互ニ相關聯シテ同一ノ目的ノ爲メニ働キ單一ノ效果ヲ生スル場合ニ於テハ假令其各部カ獨立シタル發明トナリ得ル性質ヲ有スルトモ之ヲ一發明トシテ一箇ノ特許ヲ受クルコトヲ得ヘシ例ヘハ始メテ「ランプ」ヲ製造シタル者「ランプ」全體ヲ以テ一發明トシテ特許ヲ受クルコトヲ得ヘキハ何人モ首肯スル所ナルヘシ乃チ硝子ノ「ホヤ」ト燈心ヲ上下スヘク裝置シタル金具ト油壺トヲ結合シテ點燈用ニ供スヘキ一發明ナリ其各部分タル「ホヤ」金具及油壺ハ互ニ相關聯シテ働キ點燈ナル目的ヲ達スルナリ然ルニ此發明前ニ於テ已ニ燈火器ニ同様ノ油壺及同様ノ「ホヤ」ヲ用キタル者アリシト假定セヨ然ルトキハ油壺及「ホヤ」部分ニ付テハ無効原因存在スルヲ以テ一部無効ノ審決ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ金具及此金具ト油壺及「ホヤ」ヲ無形の結合ヲ考案ハ

仍獨立シタル考案トシテ特許ノ目的タルコトヲ得ヘシ故ニ若シ發明者ニシテ初ヨリ此金具ノミニ付又ハ金具トホテ油壺トノ結合ノミニ付キ特許ヲ受ケシト欲セム之ヲ發明トシテ出願シ得ヘキハ勿論ナリトモ、
七 追加特許アル場合ニ於テ本特許又ハ追加特許ニ對シ無効審決アリタルトモハ追加特許又ハ本特許ニ如何ナル影響アルヤ同キトモ、
追加特許ヲ受タヘキ發明ハ已ニ述タル如ク利用發明ノ一種ナリ(第三七頁利用發明モ亦獨立ノ一發明ナリ唯タ之ヲ實施スルニハ必ス他ノ特許ヲ使用セサルヘカラスト云フノミ故ニ追加特許ノ無効原因カ累テ本特許ニ及ホササルハ勿論本特許ノ無効ハ又追加特許ノ成立ニ何等ノ故障ヲ與フルモノニ非ス當タニ故障ヲ與ヘサルノミナラス追加特許ノ實施ヲ掣肘セシ本特許カ消滅スルタメ追加特許ハ爾後普通ノ特許トシテ成立スルコトナリ但其年限ハ本特許ノ年限ニ從ハサルヘカラスト(第十一條)トモ、
附言 獨逸法ニ依レテ追加特許(Zusatzpatent)ヲ受タヘキ發明ハ本特許ノ改良トモ目的トナル發明ニ限ルナリ特許權者ニ非サレハ追加特許ヲ出願スルコ

トヲ得ス 特許權者ニ非サル者カ他人ノ特許發明ノ改良ヲ目的トスル發明ノ爲メニ特許ヲ受クルニハ獨立ノ特許ヲ受クルノ他ニ途ナシ通常之ヲ改良特許ト稱ス 特許權者ハ改良發明ヲ追加特許トシテ出願スルモ又獨立ナル特許トシテ出願スルモ隨意ナリ改良特許及ヒ追加特許ハ其ニ從屬特許ノ一種ナリ從屬特許(Abhängigkeitspatent)ハ我特許法第十七條ノ特許ニ該當スルモノナリ我特許法ニ於テハ追加特許ヲ受タヘキ發明ヲ改良發明ニ限ラサルヲ以テ特許權者ハ總テノ利用發明ノ爲メニ追加特許ヲ出願スルコトヲ得ルナリ

第三節 權利確認ノ審判

一二箇以上ノ特許發明互ニ撞著シ又ハ特許發明ト特許ヲ受ケタル物品若シ方法ト相撞著スルコトヲ發見シタルトキハ利害關係人ハ權利ヲ確認スルタメ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得(第二十九條)トモ、
此條文ノ文面ヨリ見ルトキハ一二箇ノ特許發明互ニ抵觸セサルコト又ハ特許

發明ト特許ヲ受ケタル物品又ハ方法トカ相抵觸セサルコトヲ主張セシトスル者ハ權利確認ノ審判ヲ請求スルコトヲ得サルヤノ疑ヲ生スヘシト雖モ其實各發明又ハ考案カ互ニ相侵ササルモノナルコトヲ主張セシタル場合ニモ亦權利確認ノ請求ヲ起コスコトヲ得ヘキ法意ナリ換言スレバ消極的權利確認ノ請求モ亦第二十九條ニ依リテ提起スルコトヲ得ヘシ第四八七號審決及之ニ對スル大審院ノ判決)

本條ニ權利ト稱スルハ特許權ヲ謂フナリ凡ソ權利確認ノ請求ニハ積極的ト消極的トアリ積極的權利確認ノ請求ハ或ル物品又ハ方法カ特許權ノ範圍ニ屬スルコトノ確認ヲ求ムルモノニシテ消極的權利確認ノ請求ハ之ニ反シテ或物品又ハ方法カ他ノ特許權ノ範圍ニ屬セサルコトノ確認ヲ得ント欲スルモノナリ

二 積極的權利確認ノ請求ニ於テハ請求人ハ特許權者又ハ特許權ノ成立ニ依リ利益ヲ有スル者ナルモ其ノ相手方カ請求ノ目的タル物品又ハ方法ヲ自己ノ特許範圍トシテ主張スル場合ト單ニ請求人ノ特許範圍ニ屬セスト主張スル場合トアリ前ノ場合ハ則チ法文ニ所謂ル二箇ノ發明互ニ撞著シタル場合ナリ然

レトモ請求ノ趣旨ハ自己ノ特許範圍ニ屬スルコトノ確認ニ在ルヲ以テ相手方カ自己ノ特許權ニ基キテ抗辯スルモ他ノ理由ニ依リテ抗辯スルモ審判ノ結果ハ同一ナリ乃チ請求人ノ申立相立タスト云フ審決アリシトスルモ是レ請求人ノ權利範圍ニ屬セスト云フ迄ニシテ相手方即被請求人ノ特許權ノ範圍ニ屬スルコトノ確認ニ非ス故ニ請求人カ他日更ニ同一ノ物品又ハ方法カ相手方ノ特許權ノ範圍ニ屬セスト主張シテ消極的權利確認ノ審判ヲ請求スルモ一事不再理ノ原則ヲ適用シテ其請求ヲ却下スヘキニ非ス

三 消極的權利確認ノ請求ニ於テハ或物品又ハ方法カ相手方ノ特許權ノ範圍ニ屬セストノ確認ヲ求ムルモノニシテ請求人カ自己ノ特許權ニ屬スルコトヲ理由トスル場合ト然ラサル場合トアリ前ノ場合ハ亦タ所謂ル二箇ノ特許發明カ互ニ撞著シタル場合ナリ而シテ審決ノ結果ニ差異ナキコト積極的權利確認ノ場合ニ述ヘタルト同理ナリ

四 二箇ノ特許發明カ互ニ撞著シタル場合ニ於テ積極的權利ノ確認アリタル場合ニハ係争ノ物品又ハ方法カ甲ノ特許範圍ニ屬スルコトナルヲ以テ假令

法理上乙ノ特許ノ範圍ニ屬セサルコトヲ審決ニ非ストスルモ同一發明カニ倫
ノ特許ノ目的トナルヘキ理ナキヲ以テ此審決ハ直チニ其物品又ハ方法ノ乙ノ
特許ニ屬セサルコトノ理由ト爲スコトヲ得ヘシ然レトモ消極的權利ノ確認ヲ
得タル場合ニハ甲ノ特許範圍ニ屬セスト云フノミニシテ乙ノ權利ニ屬スルヤ
否ヤ全ク未決ナリ假令審決ノ理由ニ於テ乙ノ特許ニ屬スヘキコトヲ認メラル
ハトモ何等ノ效力ヲ有セサルナリ故ニ所謂ル二箇ノ特許發明互ニ撞著スル場
合ニハ當事者ハ積極的ニ自己ノ權利ノ確認ヲ求ムルヲ便トス之ニ反シテ單ニ
他人ノ特許權ニ屬セサルコトヲノミ主張スル者ハ消極的權利確認ヲ求ムルノ
絶ナキナリ

五 學者或ハ無効審判モ亦タ一種ノ權利確認ナリト謂フ者アリ蓋シ發明ノ全
部又ハ一部カ特許ノ目的ニ非サルコト(即チ消極的)ノ權利確認ナリト謂フナリ
然レトモ兩者性質上ノ區別アリ無効審判ハ明カニ特許區域中ニ存在スル所ノ
物品又ハ方法ヲ特許ノ目的タル資格カキモノトシテ之ヲ特許區域ヨリ除去セ
ントスルモノニシテ他ハ始ヨリ特許區域ニ屬セサルコトヲ主張スルモノナリ

前者ハ恰モ特許ヲ奪ハンスルモノニシテ後者ハ特許ニ入レサラント欲スルナ
リ前者ハ特許區域ヲ訂正スルモノニシテ後者ハ特許區域ヲ解釋セントスルモ
ノナリ故ニ當事者ハ同一ノ理由ヲ以テ兩者ヲ任意ニ選擇スルノ自由ナシ無効
審判ノ理由タルヘキモノハ權利確認ノ請求ノ理由トナラス權利確認ノ理由タ
ルモノハ無効審判ノ理由トナラサルナリ然レトモ實際ニ於テハ明白ニ之ヲ區
別スルコト能ハサル場合ヲ生スルコト稀ナリトセス

六 權利確認ノ審決ハ無効審決ノ如ク絶對的效力ヲ有スルモノニ非ス其當事
者間ニ限リテ效力ヲ有スルモノナリ前段ニモ述ヘタル如ク無効審判ノ請求ノ
目的ハ特許權ノ存在ヲ否認セントスルニ在ルモ權利確認ノ請求ハ之ニ反シテ
或ル物品又ハ方法カ或ル特許權ノ範圍ニ屬スルヤ否ヤヲ確定セントスルモノ
ニシテ特許ノ存在ヲ爭フモノニ非ス故ニ權利ハ必スシモ絶對ニ確認セラルヘ
キモノニ非ス尤モ無効ノ場合ニ非スシテ仍ホ權利ノ存在ニ關スル確認ヲ求ム
ル必要アル場合ナキニ非ス例ヘハ特許カ賦與セラレタルヤ否ヤ又ハ特許カ已
ニ消滅シタルヤ否ヤヲ確認セントトヲ希望スル場合アルヘシ然レトモ特許法

第二十九條ニ於テハ此等ノ權利確定ノ審判ヲ請求スルコトヲ許サス若シ此種ノ權利確定ノ請求ヲ許ストモシカ無効審判ノ場合ト等シク特許ノ存在ヲ否認スヘキ趣旨ノ審決ハ絕對ノ效力ヲ與ヘテ可ナリ然レトモ單ニ或ル物品又ハ方法カ或ル特許權ノ範圍ニ屬スヘキヤ否ヤノ問題ハ訴訟當事者間ニ於ケル特種ノ關係ニ依リテ左右セラルヘキ場合尠カラス例ヘハ或ル物品又ハ方法カ甲乙兩箇ノ特許ノ中孰レカ一方ニ屬スル場合ニ於テ第三者カ甲特許權者ニ對シテ消極的權利確定ノ請求ヲ爲セル場合ト乙特許ノ所有者ヨリ自家ノ特許權ノ範圍ニ屬スヘキヲ理由トシテ同様ノ權利確定ヲ請求セシ場合トニ於テハ反對ナル審決ヲ見ルコト無シトセス蓋シ此場合ニ於テハ第三者ハ孰レニシテモ其物品又ハ方法ヲ使用スルノ權利ナキ者ナレトモ乙特許權者ト甲特許權者トノ間ニ於テハ孰レカ一方ニ屬スルコトナルヘキヲ以テ往往ニシテ甲ハ第三者ニ對シテハ勝訴トナリテ却テ乙ニ對シテハ敗訴トナルカ如キ場合ナシトセス

七 無効ハ無効審判ノ確定ニ依リテ定マリ又タ無効審判ノ確定ニ依リテノミ定マルヘキコト已ニ述ヘタル所ノ如シ是レ無効原因ノ存在ハ直ニ其特許ヲ無

効トスルモノニ非スシテ單ニ無効審決ノ理由タルモ過キタルカ故ナリ之ニ反對テ權利確定ノ審判其權利カ如何ナル範圍ニ於テ存在スルヤヲ確定スルモノニシテ換言スレハ權利關係ヲ公證スルニ外カラズ無効審決ニ於テハ特許ハ審決ノ確定ニ依リテ消滅スルモ權利確定ノ審判ニ於テハ權利ハ消極的審決ニ依リテ消滅スルニ非ス始メ別列存在セタルカ夫此故ニ無効ハ司法裁判所ニ於テ之ヲ宣告スルハ途ガキニ拘ハラズ特許權ノ確定ハ訴訟ヲ進行中ニ爭トナリタル場合ニ於テハ民訴第二百十一條ニ依リテ司法裁判所ニ於テ之ヲ判決スルコトヲ得ヘシ

第二章 特許ノ消滅

又特許ノ賦與アリタルヤ否ヤ又ハ特許ノ消滅アリタルヤ否ヤハ第二十九條ニ依リテ獨立の確定ノ請求ヲ爲スコトヲ得タルモ他ノ審判ノ進行中爭トナリタル場合ニハ其確定ノ審判ヲ請求スルコトヲ得タルカ決ス又司法裁判所ニ於テモ訴訟ノ進行中爭トナリタル場合ニハ民訴第二百十一條ニ依リテ之ヲ判決ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第六章 特許審判ノ當否

第六章 特許權ノ消滅

第一節 年限ノ滿了

特許ノ年限ニ關シ英國已ニ違ヘタリ此年限ヲ經過ニ因リテ特許ノ消滅スルコト言フヲ待たズニ諸家ニ徵スルヨリ辨セハ必ズ過ル者既ニ數ナク中絶イザモ英法美露諸國ニ通觀ミテ幾カテ皆之ヲ交ヘ發布ヘ首認スルモノ無キ否ヤ公稱三十武勳ニ

第二節 抛棄

第二節 拋棄

外國ノ立法例ニハ特許ノ消滅原因トシテ拋棄ヲ明記スルモノ尠カラズ然レニ
我特許法ニハ此規定ナシ故ニ特許ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得ルヤ否キノ問題ヲ
生ス然レトモ特許モ亦財產權ナルヲ以テ明文ヲ待タズシテ之ヲ拋棄シ得ト解
釋スルコト穩當ナルヘシ施行細則第七十一條而シテ實際ニ於テハ特許ヲ拋棄
スルコトハ極メタ稀ナリ何トカレハ自ラ特許權ノ消滅ヲ希フ者ハ特許料ノ消
納ニ依リ同一ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘキヲ以テナリ

特許ハ所有權ト同シタ之ヲ對決ル義務者ナク者ナキヲ以テ特定ノ人ニ對スル

通告又ハ其承諾ヲ待タスシテ效力ヲ生スヘシモ、
特許ノ拋棄アリタルトキハ、特許證主ハ特許證ヲ返納セサルヘカラス（施第七十
一條）特許局ハ又之ヲ原簿ニ登録セサルヘカラス（同第六十九條）然レトモ特許證
ノ返納又ハ原簿ノ登録ハ拋棄ノ效力ノ發生ト關係ナシ（英國法ニ於テハ拋棄ハ
特許局ヘ届出タル日ヨリ效力ヲ生スト規定セリ）特許ハ拋棄ナル行爲ニ依リ
ヲ消滅ス拋棄ノ形式ニ關シテハ法律ニ何等ノ規定ナシ故ニ各場合ニ付之ヲ判
斷セサル可カラズ特許權者カ他人ノ特許侵害ノ行爲ヲ默認スルモノ之ヲ以テ直
ニ特許權ノ拋棄ト見ルヘカラス特許權ハ特定ノ人ニ對スル權利ニ非サルカ故
ニ拋棄ノ意思ハ社會一般ニ對スルモノナラサルヘカラス特定ノ人ニ對スル侵
害行爲ノ默認ノ如キハ專ヨリ許容（*acquiescence*）推定スヘキモノナルハシ

特許ノ共有者ハ任意ニ其持分ヲ抛棄スルコトヲ得ヘシ然レドモ此場合ニ於テ
 ハ特許ノ消滅セシテ他ノ共有者カ其持分ヲ取得スルコトナランナリ又特許
 ノ一部ヲ抛棄スルコトヲ得ルヤ否ハ學者間ニ議論アル所ナリ然レトモ我特
 許法ニ於テハ一部無効ノ規定ナキニ拘ハラズ一部無効ノ審決ヲ爲シ得ヘキカ
 許法ニ於テハ一部無効ノ規定ナキニ拘ハラズ一部無効ノ審決ヲ爲シ得ヘキカ

特許法 特許權ノ消滅 抛棄

第三節 取消

一 第三者ノ讓受若ハ使用ノ請求ヲ拒絕シタルトキ、セハヘシ

三六箇月以上第六條ノ代理人ヲ置カサル場合ニ付

ホ左ノ二條件ヲ要ス

般ヲ利セシメンカ爲メナリ然ルニ故ナク之ヲ實施セサルニ於テハ之ヲ取消

レヲ是亦外國ニ立法例アリ

特許ヲ與フル制度ノ趣旨ニ反スルナリ故ニ之ヲ取消スナリ

許ヲ取消ナルコトヲ知シ、遂ニ持前似疑ハ、原借恩因ハ存存ヲ發見シタルイ

特許法目次

總説

第一章 發明

第一節 最先ノ發明

二一

第二節 發明ノ種類

三四

第二節 特許ヲ受クルコトヲ得サル發明

三七

第四節 發明ト實用意匠

四一

第二章 特許ヲ受クルコトヲ得ヘキ人

四四

第一節 發明者

四四

第二節 承繼人

五〇

第三節 特許ヲ受クルコトヲ得サル人

五三

第三章 特許權ノ發生

五七

第一節 出願

五七

第二節 審査	六二
第三節 審判	七〇
第四章 特許權ノ效力	七一
第一節 特許權ノ内容	七一
第二節 特許ノ年限	七七
第三節 特許權ノ處分	七八
第四節 特許權ノ侵害	九〇
第五節 特許權者ノ義務	一〇一
第五章 特許ニ關スル審判	一〇四
第一節 審判	一〇五
第二節 無效審判	一一二
第三節 權利確認ノ審判	一二五
第六章 特許權ノ消滅	一二
第一節 年限ノ満了	一三二

第二節 拋棄	一三一
第三節 取消	一三四

特許法目次終

執達吏規則

法學士 岡

八 講述

第一編 執達吏

第一章 執達吏制度ノ沿革

國家ハ箇人ノ權利義務ニ關シ法律ヲ以テ詳細ニ規定スト雖モ若シ義務者ニシテ裁判所ノ判決ニ係ラス其義務ヲ履行セサルニ於テハ國家ハ權利者ヲシテ何等カノ手段方法ニヨリテ其權利實行ノ結果ヲ得セシムルニ非レハ法規ノ最終目的トナス所ノ私權保護ヲ完全ニ爲ス事ヲ得サルヘシ故ニ若シ或人カ或行爲ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スル事ヲ判決ニヨリ命セラレタル時ニ其義務者カ自ら進ンテ其義務ノ履行ヲナストキハ其判決ハ直接ニ私權保護ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシト雖モ若シ義務者ニシテ其義務ノ履行ヲナササルニ於テハ何等カ

ノ手段ニヨリ之ヲ執行ヲ爲ササルヘカラス殊ニ法律制度ノ發達セサル舊時ニ於テハ義務者ハ唯判決ノ言渡ノミニテハ自己ノ義務ノ履行ヲナス事稀ナルハキヲ以テ從テ多クノ場合其判決ヲ執行セサルヘカラサルノ必要存スルナリ此ノ如キノ必要ハ終ニ執達吏制度ノ存在ヲ餘義ナクセシメタルモノナリ今獨逸ニ於ケル執達吏制度ノ沿革ヲ見ル(ウィーバー氏) *(Materialien zu den Reichs = Justizgesetzen I, S. 188)* ノ如キノ獨逸今日ノ執達吏制度ノ根元ヲ佛ノ執達吏 *Huissier* ニ出ルトナセトモ(ルマン氏) *(Bl. für Rechtsw. 535, 306)* ハ其根元ヲ獨ノ廷丁 *Genchlooten* ニ存スト論セリ蓋シ現時獨逸各國ニ行ハルル執達吏制度ハ區區ニシテ全ク同シト云フヘカラサルモ本體ニ於テ其制度ノ精神ハ佛ノ執達吏制度ヲ模シタルモノニシテ此點ニ於テハ(ウィーバー氏)等ノ說正當ナリト雖モ而モ昔時獨逸ニ於ケル執達吏制度ノ萌芽ハ實ニ *Gerichtsboten* ニ發セシモノト云ハサルヘカラス

後世獨逸ノ廷丁ノ淵源ヲナスモノハ東西(ゴス)ニ於ル *Missa* 又ハ *Geio* ト稱スル者ニシテ古代ニ於テハ一方ノ當事者ハ相手方ヲ裁判所ニ招喚シ州長ハ自ら判

決ノ執行ヲナシタリト雖モ後漸次事務多端トナルニ及ヒテハ到底此ノ如キ單純ノ組織ニテハ社會ノ需要ヲ充ス能ハサルニ至リ爰ニ新ニ *Missa* 又ハ *Geio* ト稱スル廷丁ノ制度起ルニ至レリ此者ノ職トスル所ハ法廷ニ裁判官及ヒ當事者ヲ招喚シ刑事事件ニ付テハ犯人ヲ逮捕又ハ拘留シ法廷ニ於テハ其内部ノ整理ヲ爲シ其他證人ヲ呼出シ並ニ判決ノ執行ヲ爲シタリ而シテ此者ハ裁判開廷ノ時ニ於テハ其裁判ニ參與シ是非ノ判斷ニ付キ意見ヲ徵セラレ又判官ノ閣席シタル時若クハ輕微ノ刑事事件ニ付テハ自ら裁判ヲナス等種種ノ職務ヲ行ハリ *(Manner. Gesch. des allgem. Gerichtsverfahrens § 61, § 104, § 105)* *Gerichtsboten* ハ又 *Missa* 又ハ *Geio* ト等シテ裁判事務ニ直接ニ參與シ裁判所ノ機關タリシト雖モ一方ニ於テハ裁判官ノ委託ヲ受ケ其手足トシテ種種ノ職務ヲ行ヘリ然ルニ後漸次寺院法羅馬法其他諸國ノ法ノ輸入セラルルニ及ヒ此制度モ非常ノ變化ヲ受タルニ至リ終ニハ此者ハ法廷内部ヲ整理スルコト、判決ヲ執行スルコト及ヒ法廷以外ニ於テ書籍ノ送達ヲナスヲ以テ其職ト爲スニ至レリ即チ此制度ニ於テハ *Gerichtsboten* ハ全ク裁判所ノ指揮ノ下ニ職務ヲ行フモノニシテ裁判官ト此者トノ關

係ハ全ク上級官吏ト下級官吏トノ關係ノ如カリシナリ此ノ如キ制度ハ徒ラニ裁判事務ヲ複雑ナラシムルノミナラス強制執行ヲ爲スニ當リテ勸モスレハ機敏ニ之ヲ行フ能ハサルノ弊ヲ生ス其他直接ニ利害關係ヲ有スル當事者ヲ直接此者ニ委任ヲ爲ス事ヲ得サルヲ以テ種種ノ點ニ於テ不便ヲ生スヘキハ勿論ナリトス

佛國ニ於ル執達吏 *Huissiers* 制度ハ全ク上ニ述フル所ニ反シ唯タ彼レノ職トスル所ハ書類ノ送達強制執行及ヒ法廷内部ノ取締ヲ爲スニ止マリ決シテ直接ニ裁判其者ニ參與セズ獨立機關トシテ唯タ當事者ノ委任ニヨリ自己ノ責任ヲ以テ其職務ヲ行ヒシナリ元來 *Huissier* ナル語原ハ *Huis* ナル語ヨリ出タルモノニシテ此語ハ戶外ノ番人又ハ戸ノ前ニ立ツ人ノ義ヲ有ス之レ佛國ニ於テハ革命以前迄ハ執達吏ハ上訴裁判所ニ於ル職員ニシテ裁判所ノ戸前ニ席ヲ構ヘ以テ法廷ノ靜平ヲ保タシメシヲ以テナリ革命以前ニ於テハ下級裁判所ノ執達吏ヲ *Sergens* ト稱シ上級裁判所ニ於ル執達吏ト之ヲ區別セリ蓋シ *Sergens* *Service* 使 *en* ナン語ト *Gens* (人) ナン語トヲ合シテ成リシ語ナリ然ルニ革命後ニ至リテ

ハ此兩者ノ區別ヲ廢シ總テ之レヲ *Huissier* ト名ケ之ヲシテ裁判所ニ對シ獨立ナル地位ヲ有セシメタリ元來佛國ノ訴訟法ニ於テハ裁判所ハ全ク受働的ノ地位ニ立ツト云フ主義ヲ確持シタリ從ツテ裁判所ハ單ニ裁判所ニ提出セラレタル訴訟事件ニ判決ヲ與フルニ止マリ其以外ノ訴訟行爲即チ訴訟進行ニ必要ナル手續證據ノ提出書類ノ送達判決ノ執行等ハ當事者ノ爲スヘキモノトセリ此ノ如キ裁判所ノ爲ササル訴訟行爲ヲ遂行セシメンカタメニ又強制執行ヲナスニ當リ公力ヲ借ルノ必要存スルヲ以テ此必要ヲ滿サンカ爲ニ此所ニ *Huissier* ノ制度ハ終ニ認メラルルコトナリタリ此ノ如クニシテ此者ハ全ク裁判所ヨリ獨立シ或監督官 *General Procureur* ニ隸屬シ當事者ノ委任ニヨリテ其職務ヲ行ヒシモノナリ即チ古代獨逸ノ *Gerichtsbote* ハ全ク官吏の行爲ナルモ佛ノ *Huissier* ハ依頼人ニ對シテハ私法上ノ關係ニ立チ裁判事務ヲ補助スル點ニ於テ官吏の行爲ヲ爲スモノナリ

上述ノ如ク舊時獨逸ニ於テハ *Gerichtsbote* ノ制度既ニ存シタリシト雖モ佛國ノ勢力全歐洲ヲ席卷スルニ至リ終ニ佛國ニ於ケル執達吏制度ハ獨逸ニ侵入シ來

ヲ初メテ「バイエルン」國ニ於テ全ク佛國ノ執達吏制度ノ主義ヲ採用スル法律ノ發布ヲ見ルニ至レリ(千八百六十九年發布ノ同國訴訟法及ヒ千八百七十年五月十五日發布ノ同國執達吏法即チ同國ノ執達吏法ニ從ヘハ佛國ノ執達吏制度ヲ模倣スルト共ニ執達吏ヲシテ刑事事件ニ關スル書類ノ送達ヲナス事及ヒ裁判官ノ指揮ノ下ニ或行爲ヲ爲スノ義務ヲ負ハシメタルノ點ニ於テ佛國ノ執達吏制度ヨリ稍其職務範圍ヲ擴張シタリシト雖モ畢竟スルニ執達吏ヲシテ裁判所ヨリ獨立シタル一機關トナシ裁判所ト當事者トノ間ニ立タシムルト云フ佛國主義ヲ根本ニ於テ採用シタリ尙ホ其他千八百五十年ニ發布シタル獨逸ハノーバー國ノ民事訴訟法モ亦佛國主義ヲ採用シ一切ノ強制執行ヲ執達吏(Gerichtsvollzieher)ノ手ニ一任シ別ニ裁判所ノ協力及ヒ監督ノ方法ヲ定メタリ獨逸帝國民事訴訟法ノ制定セラルル以前ニ於テ普國草案及ヒ北獨逸草案等種種ノ草案編成セラレタリ此等ノ草案ニ於テハ佛國主義ヲ採用セシ「ハノーバー」訴訟法ノ主義ヲ採リ唯タ執達吏ノ權限ニ屬スル強制執行ノ種類ニ制限ヲ加ヘ或種ノ強制執行ハ執達吏ヲシテ干與セシメス裁判所直接ニ之ヲ行フコトト定メタリ獨逸帝國

民事訴訟法ハ實ニ此等草案ノ主義ニ從ヒシモノニシテ此獨逸訴訟法ヲ模倣セシ我民事訴訟法ニ於テモ亦此主義ヲ採用シタルモノナリ我國ニ於テハ裁判所構成法發布以前ニ於テハ現時執達吏ノ行フ職務ハ或ハ町村役場ニ於テハ長又ハ裁判所書記之ヲ行ヒシト雖モ明治二十三年二月發布ノ裁判所構成法、同三月發布ノ民事訴訟法、同七月發布ノ執達吏規則等ニヨリ終ニ現今ノ執達吏制度ハ確定セラレタリ元來古代獨逸ニ行ハレシ Gerichtsbotenノ制度ニ從ヘハ裁判事務ヲ繁雜ニシ強制執行ノ敏捷ヲ失ヒ當事者ノ不便ヲ感セシムル等ノ欠點アルヘク又純然タル佛國ノ Juge-制度ニ從ヘハ執達吏ハ當事者ヨリ委任セラレタル行爲ヲナスニ當リ自己ノ責任ヲ以テ其行爲ノ法律ニ適合スルヤ否ヤヲ獨立シテ調査スル事トナルヘシ此ノ如キヲ法律智識ニ乏シキ執達吏ニ爲サシムルハ寧ロ當ラ得ス是ニ於テカ此兩主義ヲ折衷シ其長所ヲ採用シタル獨逸帝國民事訴訟法及ヒ之ニ模倣セル我民事訴訟法ノ主義ハ大體ニ於テ執達吏制度中最モ當ラ得タルモノト云ハサルヘカラス

第二章 執達吏ノ職務範圍

現行法規ノ定ル所ニ從ヘハ執達吏ハ區裁判所ニ屬シ法律ニ從ヒ訴訟ニ關スル書類ヲ送達シ及ヒ裁判ヲ執行スルモノニシテ當事者ノ委任ニヨリテ告知催告及ヒ動産ノ競賣ヲ爲ス事、拒絶證書ヲ作ル事又法律規則ニ定メタル職務ノ外裁判所及ヒ檢事局ノ命令ニヨリ書類物品ノ送附ヲナシ罰金科料過料ヲ徴收シ及ヒ沒收物品ヲ取上ケ若クハ賣却シ令狀ノ執行ヲ爲スヘキモノナリ此等ノ職務執行ニ關スル詳細ナル説明ニ至リテハ第二編執達吏ノ職務ナル題下ニ譲リ次ニハ唯タ此等職務範圍ノ大綱ヲ示シ置カントス

(一) 送達

- (イ) 民事事件ニ關スル送達(民事訴訟法第三百三十六條乃至第五百一十一條)
- (ロ) 刑事事件非訟事件其他總テ裁判ニ關スル事件ニ關スル送達(刑事訴訟法第十九條)

(ハ) 裁判外ノ非訟事件ニ關スル送達例ハ民法第四百六十七條ノ債權讓渡ノ

通知又ハ同法第六百十七條ノ質貸借解約申入ノ告知又ハ同法第二百六十八條ノ規定ニ於ル地上權者ノ豫告又ハ商法第五百十二條ノ規定ニ於ル株金拂込ノ催告等ノ場合ヲ云フ

- (二) 民事事件ニ付テノ強制執行(民事訴訟法第三百二十條、民事執行法第三編)

- (イ) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中動産ニ對スル執行ノ一部タル有體動産ニ對スル執行(民事訴訟法第六編第二章第一節第二款)

- (ロ) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中動産ニ對スル執行ノ一部タル債權及他ノ財產權ニ對スル執行中執達吏ノ職務ニ屬スル執行(民事訴訟法第六百三條第六百六條)

- (ハ) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中不動産及船舶ニ對スル執行中執達吏ノ職務ニ屬スル執行(民事訴訟法第六百四十三條、第六百五十九條、第六百六十三條乃至第六百六十九條、第六百八十七條、第七百三條乃至第七百五條)

- (ニ) 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行中執達吏ノ職務ニ屬スル執行(民事訴訟法第七百三十條、第七百三十一條)

- (ホ) 債務者ノ抵抗除去ニ關スル強制執行(民事訴訟法第五百三十六條第五百三十七條)
- (ヘ) 證人勾引ニ關スル執行(民事訴訟法第二百九十四條第二項)
- (ト) 假差押ノ命令及ヒ假處分ノ命令ニ關スル執行(中執達吏ノ職務ニ屬スル執行(民事訴訟法第七百四十八條第七百五十六條))
- (六) 執達吏カ法律ノ規定ニヨリ差押物又ハ賣得金ヲ供託スヘキ場合(民事訴訟法第五百條第五百二十二條第五百四十七條第五百七十四條第七百四十七條第七百五十九條及ヒ同法第五百九十三條第六百二十一條第六百二十六條、執達吏職務細則第八十一條)
- (三) 刑事事件ノ執行其他ノ事務ニ關スル執行
- (イ) 罰金、科料及ヒ過料ノ執行(刑事訴訟法第三百二十條、執達吏規則第三條、刑法附則第二十條)
- (ロ) 刑事訴訟ノ裁判ニ於テ犯人ニ負擔セシメタル損害賠償ノ執行(刑法附則第五十八條第五十九條)

- (ハ) 刑事訴訟ニ於ル沒收物沒收金及ヒ追徵金ノ徵收(刑事訴訟法第三百二十條、執達吏規則第三條)
 - (ニ) 裁判費用ノ徵收(刑事訴訟法第三百三十四條第四百一十一條第三百二十條、刑法附則第四十八條乃至第五十三條及ヒ民事訴訟法第九十九條)
 - (四) 行政裁判所其他特別裁判所ヨリノ囑託ニ依ル強制執行(行政裁判法第二十一條)
 - (五) 動産ノ競賣(競賣法第三條、執達吏規則第二條)
 - (六) 拒絕證書ノ作成(商法第五百十四條第五百十五條第五百十七條、執達吏規則第二條)
- 以上列記ノ事項ヲ以テ執達吏カ如何ナル職務ヲ執ルヤノ大略ヲ叙説シ得タリト信ス

第三章 執達吏ト相手方トノ關係

執達吏カ其相手方ニ對シテ如何ナル地位ニ立ツヤハ學說ノ分ルル所ニシテ之

ヲ二大別シテ代理説及ヒ官吏説ノ二種トナス事ヲ得
代理説ハ執達吏ト相手方トノ私法上ノ關係ノ方面ヨリ執達吏ヲ觀察スル者ニ
シテ此派ニ屬スル學者ハ「ゼンフルト」「ストラックマン」「コッホ」「フォン」「ヴィルモース
キー」「ザルバー」「ペーナルゼン」「ガウプ」等ナリ官吏説ヲ採ル者ハ執達吏ト相手方
トノ關係ヲ公法上ノ關係ヨリ觀察スル者ニシテ「ヘルマン」「ラング」等此派ニ屬
ス

官吏説ヲ主張スル「レヒテンスタイン」氏ハ執達吏ト相手方トノ關係ハ執行依頼
者ト裁判官ノ關係ノ如ク執達吏カ委任ニヨリテ強制執行ヲナスハ裁判所ノ執
行機關トシテ爲スモノナリ從フテ此間ニ私法的關係存スト云フハ全ク無意味
ナリト述ヘ又「ブンゼン」氏ハ執達吏ト依頼者トノ間ニ委任關係存スルモノニ非
ス何トナレハ執達吏ハ執行ヲ委任サルレハ之ヲナスノ義務アルヲ以テナリ然
ルニ一般私法上ノ委任ニ於テハ此ノ如キ義務アルナシト述ヘ又私法上ノ代理
權ハ本人ノ死亡ニヨリテ消滅スルモ執達吏ハ其執行ヲ依頼シタル債權者カ死
亡スルモ尙ホ其職務ヲ行フヘク又債權者カ委任ノ取消ヲ爲スモ當ニ兩者間ノ

關係ヲ解除スルモノニ非スト述ヘ代理説ニ反對セリ人ニ「（譯）ハ「（譯）トノ
次ニ官吏説ニ根據ヲ與フル一判例ヲ示サンニ甲ナル原告カ確定判決ニ基キテ
乙ニ對シテ強制執行ヲナスコトヲ丙ナル執達吏ニ委任セリ然ルニ丙カ差押ニ
著手セントシタルトキニ乙ハ自己ノ財産ニ對シ破産開始ノ始マルヘキコトヲ
告ケ而シテ直ニ其告知ノ如ク破産ハ開始セラレタリ依テ執達吏ハ差押ヲ少時
停止セリ此レカ爲メニ破産ニヨリ甲ハ唯一部ノ辨濟ヲ受タルニ過キサレコト
トナレリ而シテ甲ハ此不足ニ對シテ執達吏ヲ訴ヘタリ即チ若シ執達吏カ破産
以前ニ差押ヲ爲シタルハ其差押ヘタル動産ニ對シ別除權ヲ有シ獨破産法第四
十一條九項以テ全額ノ支拂ヲ受クヘカリシニ執達吏ノ之ヲ爲サザリシハ不當
ナルヲ以テ其不足額ハ執達吏ノ支拂フヘキモノナリト申立タタリ執達吏ノ之
ニ對スル答辯ハ乙ノ告知ハ支拂停止ヲ意味ス而シテ自分ハ甲ノ代理人トシテ
委任ヲ受ケ居ルヲ以テ自分ノ支拂停止ヲ聞キシ事ハ即チ又甲ノ支拂停止ヲ聞
知セシト同一ノ效果ヲ有ス依テ差押ノ停止ハ不當ニ非ス從テ其不足額ヲ賠償
スルノ責ナシト此場合裁判所ハ甲ノ申立ヲ正當ナルモノトシテ執達吏ニ敗訴

ヲ申渡セリ
此ノ如ク官吏說ヲ唱フル學者少ナカラスト雖モ余輩ハ執達吏ト債權者トノ關係ハ私法上ノ關係ナリトナス代理說ヲ贊スルモノナリ即チ執達吏ノ爲ス所ノ執行ニ付テハ債務者ヨリ金錢ノ支拂又ハ物品ノ給付又ハ賣得金ノ領收ヲ爲セルトキハ之ヲ以テ直チニ債務ノ履行ヲ終了シタルモノト看做スカ故ニ執達吏ハ債權者ノ爲メニ債務ノ履行ヲ受クヘキ地位ニ立ツモノト云ハタルヘカラス從ツテ執達吏ノ過失ニヨリ生スル不利益ニ付テハ執達吏ハ債權者ニ對シ私法上ノ責任ヲ有スルハ勿論其他手數料ノ受領ノ如キ總テ委任者ト執達吏トノ關係ハ私法上ノ關係ニ立ツナリ然レトモ亦執達吏ニ對シテ爲ス委任ハ私法上ノ純粹ナル委任ト同一義ニ非ル事ヲ注意セサルヘカラス即チ此委任ハ執達吏ナル執行機關ニ對スル執行ノ申出ニシテ申出ニヨリ執行機關ハ執行權ヲ行使スルモノナリ故ニ執達吏ハ執行當事者及ヒ其關係人ニ對シテハ執行法ニ依ル公法上ノ關係ヲ生スルモノト云ハサルヘカラス要言スレバ執達吏ハ債權者ニ對シテハ私法上ノ關係ニ立テ執行當事者及ヒ其關係人ニ對シテハ公法上ノ關係

係ニ立ツモノナリ
故ニ前ノ判例ニ於テ執達吏カ甲ノ委任ヲ受ケ既ニ乙ニ對シ執行行爲ヲ開始セントシタル時ニ於テハ執達吏ハ唯タ乙ニ對スル公法上ノ關係存スルノミニシテ甲ヨリノ委任ハ一般私法上ノ委任ノ如ク此時迄私法關係トシテ連續セルモノニ非サルヲ以テ此場合執達吏ハ甲ノ代理權ヲ主張シ得ヘキニ非サルヤ勿論ナリ又執達吏ハ執行機關トシテ裁判事務ニ關與スル者ナルヲ以テ委任ヲ受ケテ此レニ應スヘキハ彼レノ公法上ノ性質ヨリ當然出テ來ル結果ニシテ例ハ一般官吏カ入札請負ノ監督官トシテ立ツ時ニ於テ請負入札者ト民事上ノ契約ヲ締結スヘキト同一理由タルナリ又私法上ノ代理權ハ本人ノ死亡ニヨリ消滅スルコトハ我民法第百一十一條ニ於テモ規定スル一般原則ナレトモ執達吏ノ場合ノ委任ハ前述ノ如ク執行ノ申出ニ止マルヲ以テ一般私法上ノ委任原則ヲ適用スヘカサル事勿論ナリ從ツテ「ブンゼン」及ヒ「ヒテンス」タイン氏等ノ官吏說ニハ左相シ得ヘカサルナリ
以上述フルカ如ク執達吏ニ對スル執行委任ハ私法上及ヒ公法上ノ兩種ノ關係

ニ於テ發現スルモノナレトモ如何ニシテ此等ノ關係發生スルヤ又執達吏カ如何ナル公法上ノ權利義務ヲ當事者ニ對シテ有スルヤノ詳細ナル事ニ至リテハ第二編ニ於テ説明セシムルモノトス

第四章 執達吏ノ資格

執達吏トシテ職務ヲ行フニハ一定ノ資格ヲ要ス即チ

(一) 一定ノ條件ヲ具備スル事 年齡滿二十五歳以上ノ男子ニシテ身體健全ニシテ且ツ陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコト並ニ品行方正ニシテ家計ノ整理シタルコト(執達吏登用規則第一條)

(二) 一定ノ瑕疵ヲ有セサル事 重罪ヲ犯シ國事犯ニシテ復讐シタル者ヲ除ク又ハ定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯セシ者或ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免

レタル者及ヒ懲戒ノ處分ニ依リ免職セラレタル者ハ執達吏タル事ヲ得ス(執達吏登用規則第二條)

(三) 一定ノ試験ヲ經ル事 (執達吏登用規則第三條乃至第十九條)

(イ) 受験者ノ資格 執達吏登用試験ヲ受ケント欲スル者ハ上ニ述ヘタル

(一) (二)ノ資格ヲ有スル者ニシテ且ツ控訴院長ノ許可ヲ經テ其指定アレタル區

裁判所ニ於テ六箇月以上主トシテ執達吏ノ職務ヲ修習シ傍ラ書記ノ職務ヲ修習シタル者タル事ヲ要ス

(ロ) 試験 試験ハ筆記口述ノ二種トシ筆記試験ニ及第シタル者ニ非レハ口

述試験ヲ受クル事ヲ得サルモノトス其試験科目ハ(イ)民事訴訟法刑事訴訟法中書類ノ送達及ヒ執行ニ關スル規程(ロ)執達吏ニ關ル諸規則(ハ)算術(ニ)讀書筆

寫ノ四科目トス

(ハ) 試験期日及試験委員 試験ハ毎年一回地方裁判所ニ於テ之ヲ行ヒ試験委員長及試験委員ハ地方裁判所及區裁判所ノ判事檢事中ヨリ試験舉行毎ニ

司法大臣之ヲ命ス

(四) 試験ヲ要セサル一定ノ資格者 左ニ列記スル者ハ試験ヲ要セスシテ執達吏ニ任セラルル事ヲ得但シ六箇月ノ事務修習ヲ要スル事ハ上ノ(三)ノ(イ)ニ述ヘ

タル所ニ同シ(執達吏登用規則第二十條第二十一條)

- (一) 官公府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校、司法省舊法學校又ハ帝國大學ノ監督ヲ受ケタル舊私立學校及文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者
- (二) 裁判所書記ヲ登用試験ニ及第シタル者
- (三) 判任官以上ノ職ヲ現ニ奉シ又ハ曾テ奉シタル者
- (四) 陸軍下士ニシテ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得ル者
- (五) 執達吏ノ任補 以上ノ資格ヲ有スル者モ猶ホ直チニ執達吏タル事ヲ得ス即チ一區裁判所管内ニハ執達吏ノ定員アルヲ以テ前ノ執達吏中ニ缺員アル場合ニ於テ控訴院長ハ以上ノ資格者中ヨリ試験成績其他ノ諸點ヲ考案シテ選定任補スルニヨリテ初メテ執達吏タル事ヲ得ルニ至ル(執達吏登用規則第二十二條)
- (六) 保證金 執達吏ニ任セラレタル者ト雖モ保證金ヲ管轄地方裁判所ニ納メタル間ニ裁判所ヨリ官印ヲ交附セラレズ從ツテ執達吏ノ職務ヲ行フ事ヲ得ス又任補ノ日ヨリ三十日內ニ保證金ヲ納ムルニ非レハ其職務ヲ罷免セラレ

而シテ保證金ハ五百圓以下ニシテ其額ハ地方ノ情況ニ鑑ミ控訴院長適宜ニ之ヲ定ム最モ保證金ハ或一定ノ債券又ハ株券ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ルナリ(執達吏登用規則第二十三條第二十四條)

第五章 執達吏職務執行ノ代理人

元來送達及ヒ執行ノ如キ總テ執達吏ノ職務ニ屬スルモノハ一定ノ時期ニ或定數ヲ限リ起リ來ルモノニアラスシテ訴訟事件ノ多寡ニ應ジ委任者ノ數ニ準シ或時ハ非常ニ其職務ノ閑散ナル事モアルベク又非常ニ繁忙ヲ極ムル事モアルヘシ然ルニ執達吏ハ一所屬區裁判所ニ定數アルヲ以テ如何ナル繁忙期ニ於テモ俄ニ此定數ヲ増加スル能ハサルハ勿論又一人ノ執達吏ニ多數事務ノ委任アル時等ニ於テ必ス其職務ヲ其執達吏自身ニ於テ爲スベキモノトスレハ事務ノ澁滞ヲ來シ又ハ執務上疎漏ヲ生スベキハ蓋シ數ノ免カレタル所ナルヘシ故ニ此ノ如キ必要アル場合ニ於テハ一定ノ資格者ニ其職務執行ヲ委任セシメ得ル事ト爲シ此ノ如キ弊害ヲ防遏セラルヘカラス此レ法律カ特ニ執達吏ニ其職務

執行ヲ委任スルコトヲ得セシメタル所以ナリ執達吏規則第十一條然レトモ特別ニ或事務ニ關シ執達吏自身ニ於テ爲スヘキ命令又ハ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ他人ニ委任シテ爲サシムル事能ハサルハ勿論ナリ而シテ其委任ヲ許ス場合ニ於テモ其代理人カ執達吏ニ代リテ爲シタル行爲ニ關シテハ執達吏自ラ其責ニ任セサルヘカラス蓋シ若シ執達吏自身ニ其責任ヲ負ハサル事トスレハ代理人ハ或ハ無責任ノ行爲ヲ爲ス事アルヘク又執達吏モ之レヲ觀過シ取テ之レカ監督ヲ爲ササルヘキヲ以テナリ而シテ其職務執行ヲ委任ナレ得ヘキ者ハ次ノ如キ資格ヲ有スル者タラサルヘカラス

(イ) 執達吏ノ登用試験ニ及第シタル者

(ロ) 執達吏ノ職務修習者ニシテ三箇月以上其職務ヲ修習シタル者

(ハ) 裁判所書記ノ登用試験ニ及第シタル者

(ニ) 區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行フニ適當ト認メタル者

此レ執達吏ノ行フ事務ハ司法事務ノ一部ナルヲ以テ此事務ヲ代理シテ執行ス

シムルニ當リテモ相當ノ資格ヲ有スル者ナルコトヲ要スル事論ヲ待タサルナリ

執達吏若シ其職務ノ施行ヨリ除斥セラメル等其他正當ノ理由アリテ其職務ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ事務施行ヲ委任スヘキ有資格代理者ナキ等其他之ヲ委任スルコトヲ得サルトキハ執達吏ハ遲滯ナク其旨ヲ委任ヲ爲シタル本人又ハ命令ヲ爲シタル裁判所及檢事局ニ通知シ相當ノ處置ヲ探ラシムヘキナリ若シ委任ヲ爲シタル本人カ旅行ヲナシ又ハ居所知レサル等ニテ其旨ヲ通知スルコト能ハサルトキ又ハ急速ノ處分ヲ要スルトキハ其旨ヲ區裁判所ノ判事若クハ監督判事ニ申立ツヘシ執達吏規則第十二條

區裁判所ハ上述ノ通知又ハ申立ヲ受ケタル場合ニ於テ其他執達吏差支アルトキハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ執達吏ノ代理ヲ爲シ得ル資格者ニ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得ルナリ而シテ實際ニ於テハ區裁判所ノ判事又ハ監督判事ニ於テ適當ト認ムル者ヲ選定シ之ニ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルヲ常トス(執達吏規則第十三條第十一條)

第六章 執達吏ノ除斥

執達吏ハ判事裁判所書記ト共ニ司法機關ノ職務ヲ行フ職員ナルヲ以テ一般ニ法律ノ定ムル所ニ從ヒ其職務ヲ行フヘキモノナルモ或場合ニ於テハ之ヲシテ其職務ノ執行ヲ爲サシメサルコトヲ至當トスル場合アリ凡ソ司法機關ノ其職務ヲ行フニ當リテハ公平無私ニ其職務ヲ行ハサルヘカラサルナリ聊カタリトモ偏頗ノ所爲アルヘカラサルハ勿論或ハ偏頗ノ所爲アルヘシト恐アル場合ニ於テハ豫メ之ヲ避ケサルヘカラス法律カ此等ノ偏頗ノ事情トシテ一般ニ規定スルモノハ即チ除斥及ヒ忌避ノ原因ナリ

或訴訟事件ニ付キ除斥ノ原因アルトキハ司法機關ノ職員ハ其事件ニ付キ當然職務ヲ行フコトヲ得サルニ至ル反之シテ忌避ノ原因存スルトキハ當事者ハ忌避ノ申請ヲ爲ス事ヲ得ヘク而シテ其申請ノ正當ナル場合ニ於テハ司法機關ノ職員ハ其職務ヲ行フコト能ハサルニ至ルナリ

執達吏ハ其職務ノ施行ヨリ除斥セラルルコトアリト雖モ執達吏規則第八條決

シテ忌避セラルルコトナキナリ此レ若シ忌避ヲ許ス時ハ當事者ハ忌避ノ申請ヲ提出シ其職務施行ニ障害ヲ與フル事ナカラサルト共ニ又忌避ヲ許スモ其實用多カラサルヘキヲ以テ立法者ハ執達吏ニ關シテ忌避ヲ認メス

法律ニ依リテ執達吏カ其職務ノ施行ヨリ除斥セラルヘキ場合ハ左ノ如シ(執達吏規則第八條)

(イ)自己又ハ其婦カ當事者若クハ被害者タルトキ又ハ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者ト共同權利者共同義務者若クハ償還義務者タルノ關係ヲ有スルトキ

(ロ)自己又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

(ハ)自己カ同一ノ事件ニ付證人若クハ鑑定人ト爲リテ訊問ヲ受クルトキ又ハ法律上代理人ト爲ルノ權利ヲ有スルトキ若クハ之ヲ有シタルトキ

以上列記ノ除斥ノ原因存スルトキハ執達吏ハ官廳又ハ官吏ヨリ委任ヲ受ケタルト一私人ヨリ委任ヲ受ケタルト問ハス執達吏ハ其職務ノ施行ヨリ除斥セ

第六章 執達吏ノ管轄區

執達吏ハ區裁判所ニ屬ス裁判所構成法第九條執達吏規則第一條ノ規定スルハ之レ唯タ執達吏ノ所屬ヲ明ニシ其監督官廳ヲ指示スルニ止マルモノニシテ決シテ之レニヨリテ執達吏ノ職務ヲ行フ土地ノ區域ヲ限定スルモノト誤解スヘカラス執達吏ノ管轄區ニ關シテハ裁判所構成法第九十七條及ヒ執達吏規則第七條ノ規定ニ從フヘキモノナリ民事訴訟法ニ規定スル裁判管轄ニ付テハ其提起セラルル事件ノ種類ニ基キテ管轄ヲ定ムル場合即チ事物ノ管轄ノ方面ト單ニ土地ノ區域ニ從ヒテ管轄ヲ定ムル場合即チ土地ノ管轄ノ方面トノ二方面ヲ有スルモ執達吏ノ管轄權ニ至リテハ其執ル所ノ事務ノ種類ニ基キテ管轄ヲ定ムル能ハス何トナレハ執達吏ノ爲スヘキ職務ハ法律上一定シ而シテ法律上定メラレタル職務ハ如何ナル執達吏ト雖モ之ヲ爲シ得ヘキヲ以テナリ故ニ執達吏ノ管轄ハ單ニ土地ノ區域ニ從

雜 錄

○擔任講師ノ變更 本講義錄擔任講師仁井田博士執達吏規則松岡學士公證人規則公務多忙ノ爲ノ辭任セラレタルニ因リ新ニ京都大學大學院學生法學士岡八氏東京地方裁判所判事法學士山脇貞夫氏ヲ招聘シテ其後任トセリ
○選舉豫定時間ノ變更ト選舉ノ效力 町村會議員ノ選舉ニ於テ或事情ノ爲メ公告シタル豫定時刻ヲ繰下ケテ選舉ヲ開始シタルトキハ其效力如何ニ付キ行政裁判所ハ判決シテ曰ク「被告ハ町村制第十九條ハ町村長ニ命スルニ選舉ヲ行フトキハ豫メ其日時ヲ公告スヘキコトヲ以テシタルカ故ニ同條ニ本ツキ一旦公告シタル以上ハ縱令如何ナル事由アルモ之ヲ變更スルヲ得ス若シ變更ノ必要アルトキハ更ニ公告セサルヘカラス然ルニ本件ニ級選舉ハ豫定時刻ヨリ四時間ヲ繰下ケ執行シタルモノナルニモ拘ラス其前之レカ公告ヲ爲サナリハ明カニ選舉ノ定規ニ違背シタルモノナリト謂フト雖町村制第十九條ハ選舉人ヲ選舉ニ招致スルカ爲メ之ヲシテ必要ノ事項ヲ周知セシムルノ目的ヲ以テ

設ケタル規定ナルカ故ニ依リ町村長ノ定メタル選舉期日ニ於テ相當ノ事由ニ因リ豫定時間ヲ繰下タルカ如キハ選舉人ノ選舉權行使ヲ害セザル限リ同條ノ趣意スル所ナリト謂ハサルヘカラス本件ニ級選舉ハ當日午前八時ヨリ午後四時マテノ間ニ執行スヘキ旨ヲ公告シタルモ村長代理者解職ノ通知運達ノ爲メ午前八時マテニ選舉掛長ヲ定ムルコト能ハス爲メ同日正午ニ至リテ始メテ選舉會ヲ開始シ午後八時ニ至リテ之ヲ閉鎖シタルモノナルカ故ニ時間ノ繰下ハ已ムヲ得タル事由ニ出テタルモノト認メサルヲ得ス而シテ被告ハ時間ノ繰下カ選舉權ノ行使ヲ阻碍シ延テ選舉ノ結果ヲモ左右スルニ至ルヘキコトヲ主張スト雖本件ニ於ケル時間繰下カ現ニ選舉權ノ行使ヲ妨ケタルノ證據ヲ提供セザルカ故ニ本件ニ於テハ時間繰下ノ爲メ選舉權ノ行使ヲ阻碍シ延テ選舉ノ結果ヲモ左右スヘキ事實アリシモノト認ムルコトヲ得スト行政裁判所明決三十八年第四百三十八號村會議員選舉ノ效力ニ關スル上訴事件○區ノ起債權 町村ノ區ノ性質ニ付テノ我大審院ノ判決例ハ本講義錄雜報第二十一、二頁ニ於テ紹介シタル所ナルカ同判例ニ依レハ區ハ財產ヲ所有スル

トキハ獨立ナル一ノ法人トシテ其財產權ノ主體ト認ムヘキモノトセリ果シテ然ラハ此獨立人格者タル區ハ自ラ負債ヲ爲スコトヲ得ルカ更ニ進ミテ主務官廳ノ許可ヲ經テ發布シタル區會條例中明カニ起債事項ヲ議決シ得ルコトヲ規定セルトキハ如何行政裁判所ハ判決シテ曰ク「本件所爭ノ要點ハ第一法律ハ町村内ノ區ノ起債權ヲ認ムルモ内務大臣ノ許可ヲ受ケテ制定シタル區會條例ニ於テ區會ハ區有不動産ノ賣入ヲ爲スノ議決權アルコトヲ定メタル場合ニ於テハ起債ノ權能ヲ有スルモノナルヤ否ヤニ在リ依テ按スルニ第一町村内ノ區ニ付テハ廣ク其法人タルヘキコトヲ定メスシテ單ニ第百十四條及第百十五條ヲ以テ其財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケタル場合ニ付特別ノ規定ヲ爲シタルニ過キス故ニ町村内ノ區カ權利義務ノ主體タルコトヲ得ルハ直接其財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケタルコトニ關スル場合ニ限ルモノニシテ起債ノ如ク財產ノ所有又ハ營造物ノ維持ト直接ノ關係ナキ事項ニ付テハ町村制ハ區ニ其權能アルコトヲ認メサルモト謂ハサルヘカラス第二區會條例ナルモノハ町村制

ニ本キヲ制定スルモノナルヲ以テ其規定ハ町村制ノ範圍外ニ出ツルコト能ハ
ス隨テ區會條例ヲ以テ町村制ノ認メサル權能ヲ區ニ與フルコト能ハサルモノ
トス故ニ區會條例中區會ノ議決スヘキ事項トシテ區有不動產ノ買入書入ヲ爲
スコトヲ規定シタル場合ニ於テハ其規定ハ區カ自ラ起債ヲ爲スニアラサル場
合ニ於テ適用セラルヘキモノト解スヘキモノニシテ之ヲ以テ區ニ起債權ヲ與
ヘタルモノト解スヘキモノニアラスト(行政裁判所明治三十六年第四百六號
明治三十八年十二月第一號宣告)

○行政訴訟ノ相手方 或行政處分ニ對シ訴願ヲ爲シ府縣知事ノ裁決ヲ受ケ
而シテ其裁決ニ對シ行政訴訟ヲ提起スルトキハ處分ヲ爲シタル官廳ヲ相手方
ト爲スヘキカ將テ裁決ヲ爲シタル知事ヲ相手方ト爲スヘキカ行政裁判所ハ判
決シテ曰ク「行政訴訟ノ對手人ト爲スヘキ者ニ付テハ法律上何等ノ規定ナキニ
依リ處分者裁決者ノ何レヲ對手人ト爲スモ違法ト謂フヲ得スト」(行政裁判所
明治三十六年十二月九日第一號宣告)

法政大學廣告

○專門部

正科生別科生共肄員アリ臨時入學ヲ許ス
專門部生徒ニハ當該學年級講義錄ヲ無代價ニテ頒與ス

○高等研究科

臨時入學ヲ許ス

○校外講義生

臨時入學ヲ許ス
特別法講義錄 毎月一回發行月謝金拾五錢

本大學ノ創刊ニ係ル講義錄ニシテ其科目ハ府縣制、郡制、市制、町村制、現行租稅法論、戶籍法、
不動產登記法、供託法、非訟事件手續法、人事訴訟手續法、競賣法、特許法、意匠法、商標法、著作
權法、公證人規則、軌道規則トス

○法學志林

梅博士每號執筆
毎月一回發行本大學講師其他專門家ノ論說及纂論、質疑ノ解答、寄書、散錄、漫評、判例、雜報、
記事等ヲ掲載シ政治家ノ參考資料トス

三十七年二月

司法部指定
文部省認定

立 法 政 大 學

